



第51回 愛媛県教育研究大会(発表大会)

学習指導案集

研究主題

主体的に学び、粘り強く探究する子どもの育成
～「問い」から深い学びへとつなぐ単元デザインの構築～



令和6年11月7日(木)
宇和島市立明倫小学校



日 程

○ 受 付 9:10 ~ 9:40

○ 授業説明 9:40 ~ 9:50

○ 公開授業 10:00 ~ 10:45

授業教室	教科名	単 元 名	授業者	協議会場
1年2組	道 徳	ともだちだいすき つながるっていいな	木村 美鈴	1年2組
2年1組	国 語	せつめいのしかたに気をつけて読み、 それをいかして書こう	村上 日菜子	2年2組
3年1組	算 数	円と球～円リンピックをしよう～	石井 雄一郎	3年2組
4年2組	算 数	調べ方と整理のしかた ～安全・安心な明倫小学校にしよう～	濱本 星子	4年2組
5年2組	国 語	資料を用いた文章の効果を考え、 それをいかして書こう	平山 琴美	5年2組
6年2組	道 徳	よりよく生きる	松浦 華絵	6年2組
7くみ	生活単元学習	ぼかぼかタイム～なかよくなるう～	山下 智子	6くみ

○ 研究協議 11:00 ~ 12:00

移動(城南中学校へ)→昼食

12:00 ~ 12:50

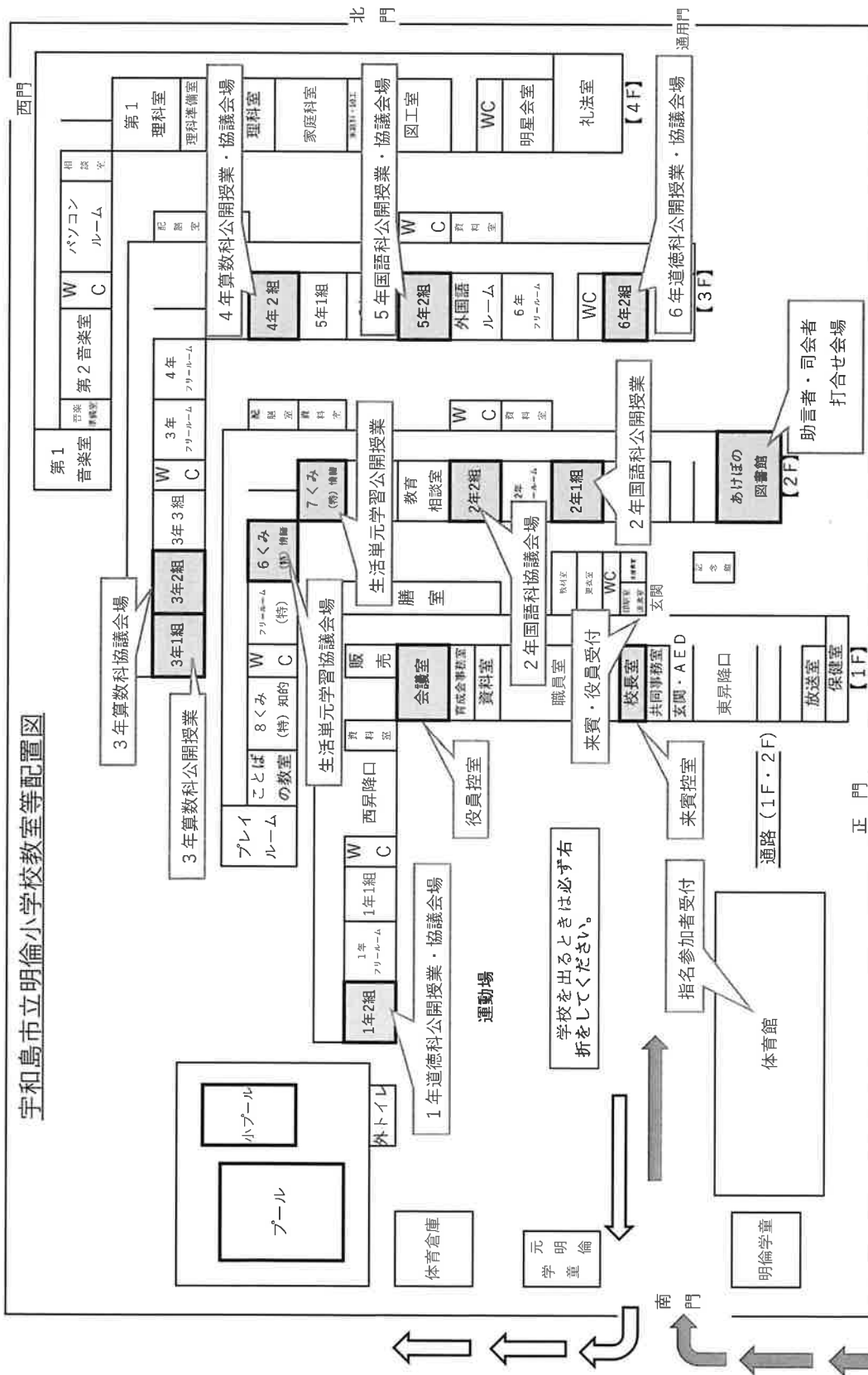
○ 開 会 式・全 体 会 12:50 ~ 13:10

○ 研究発表・ディスカッション・総括 13:20 ~ 15:45

○ 閉 会 式 15:45 ~ 15:50

教室配置図

城南中学校






R56

運動場へ駐車する際は、国道側から進入し、南門から入ってください。
8時30分までは、通れませんので、御注意ください。

宇和島市立明倫小学校教室等配置図

グループ協議の進め方

宇和島市立明倫小学校

<p>(1) 全体会Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役員紹介 ・ 研究協議の目的と協議の視点、進め方の説明 ・ 授業者による自評 	5分			
<p>① 司会者 進行例に沿って進める。 ② 授業者 授業構想、本時のねらい、本時の自評を述べる。 ③ 参観者 協議に入る前にどうしても質問しておきたいことがあれば質問をする。</p>				
<p>(2) グループ協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数グループでの授業分析、成果と課題についての協議 	17分			
<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ協議の手順（グループ司会者を中心に進める。） ① 付箋紙に記入する。（時間を短縮化するために、事前を書いておくことが望ましい。） 				
<p>付箋紙の活用</p> <p>㊟・・・研究の視点について、課題と感じた、工夫が必要であると思われること</p> <p>㊿・・・研究の視点について、良かった、効果があったと思われること</p> <p>㊾・・・その他、気が付いたこと</p> <p>* 授業を見ながら、付箋紙1枚につき一つ、気が付いたことを大きな文字で簡潔に書く。</p>				
<p>② 自分の書いた付箋紙の内容を簡単に紹介しながら模造紙に貼り出す。 ③ 類似した意見があったら、前の人が貼ったそばに貼っていく。 * 全員が付箋紙を貼り終えるまで、繰り返す。 ④ グループ司会者を中心に付箋紙を整理・分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 内容のまとまりができるように付箋紙を移動する。 ○ 書かれている内容により、付箋紙をグループ化する。 ○ グループに小見出しを付ける。 				
<p>小見出し例 「单元デザインのゴール」、「深く学んでいる姿の共有」等</p>				
<p>⑤ 成果と課題について明らかにし、課題に対する改善策を協議する。</p>				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> 記入例 单元デザインのゴール </td> <td style="width: 30%; text-align: center; padding: 5px;">  </td> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> <改善策> 各教科の目標の実現 対話の取り入れ方 </td> </tr> </table>		記入例 单元デザインのゴール		<改善策> 各教科の目標の実現 対話の取り入れ方
記入例 单元デザインのゴール		<改善策> 各教科の目標の実現 対話の取り入れ方		
<p>⑥ 全体会Ⅱの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループ司会者を中心に、グループ内で協議した要点を簡単にまとめる。 				
<p style="text-align: center;">授業者・指導者の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業者は、各グループを巡視し、協議の概要を捉えたり、質問に答えたりする。 ・ 指導助言者・司会者は、グループを巡視し、必要に応じて助言するとともに、全体協議の視点について見通しが持てるように調整する。 				
<p>(3) 全体会Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ発表（各グループ2分程度）と授業者の感想発表 	15分			
<p>① 全体会司会者が進行し、各グループから協議内容を簡単に発表する。 ② 授業者は、出された課題や改善策について、感想を述べる。</p>				
<p>(4) 指導・助言</p>	20分			

研究推進計画（授業説明資料）

宇和島市立明倫小学校

1 研究主題

主体的に学び、粘り強く探究する子どもの育成
～「問い」から深い学びへとつなぐ単元デザインの構築～

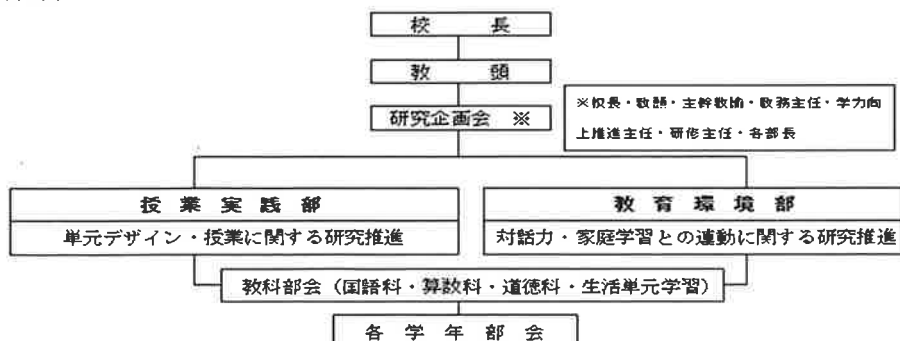
2 主題設定の理由

本校は、宇和島市の中心部に位置し、全校児童 429 名の中規模校である。藩校明倫館の歴史を受け継ぐ伝統校であり、これまでに築かれた校風や業績を守り続ける（不易）とともに、時代に柔軟に対応した教育（流行）に取り組んでいる。学校教育目標「自ら考え進んで実践する心豊かな子どもの育成」の下、「凡事徹底」を「人倫教育」の一環として行い、具体的な指導内容として「七つの教え」や「四つの『あ』」の徹底を目指している。

児童は、子どもらしく伸び伸びとしており、与えられた役割や仕事を気持ち良く引き受け、その責任を果たそうと一生懸命取り組むことができる。その一方で、善い行動が分かっているにもかかわらず、指示を受けてからしか動けないという、受動的な姿勢が見られる。また、学習面では二極化が進んでおり、与えられた課題に対して真面目に取り組み、解決しようとする児童と、教えてもらうことを待つ児童がいる。さらに、全体的に自己表現が苦手な児童が多く、友達と活発に意見交流をしたり、自分の思いを説明したりする場面では、消極的になってしまう。

このような児童の実態を踏まえ、情報化、グローバル化などが進み、変化が大きく予測困難な未来を自ら切り拓く力を身に付けさせるためには、問いを持って学習に主体的に取り組むこと、友達と協働し、対話をする中で自分の考えを広げることが大切であると考えた。そのために教師は、児童が自ら問いを見だし、意欲を持って粘り強く学び続けることができるような学習を計画・デザインしていくことが必要ではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究推進体制



4 研究の仮設

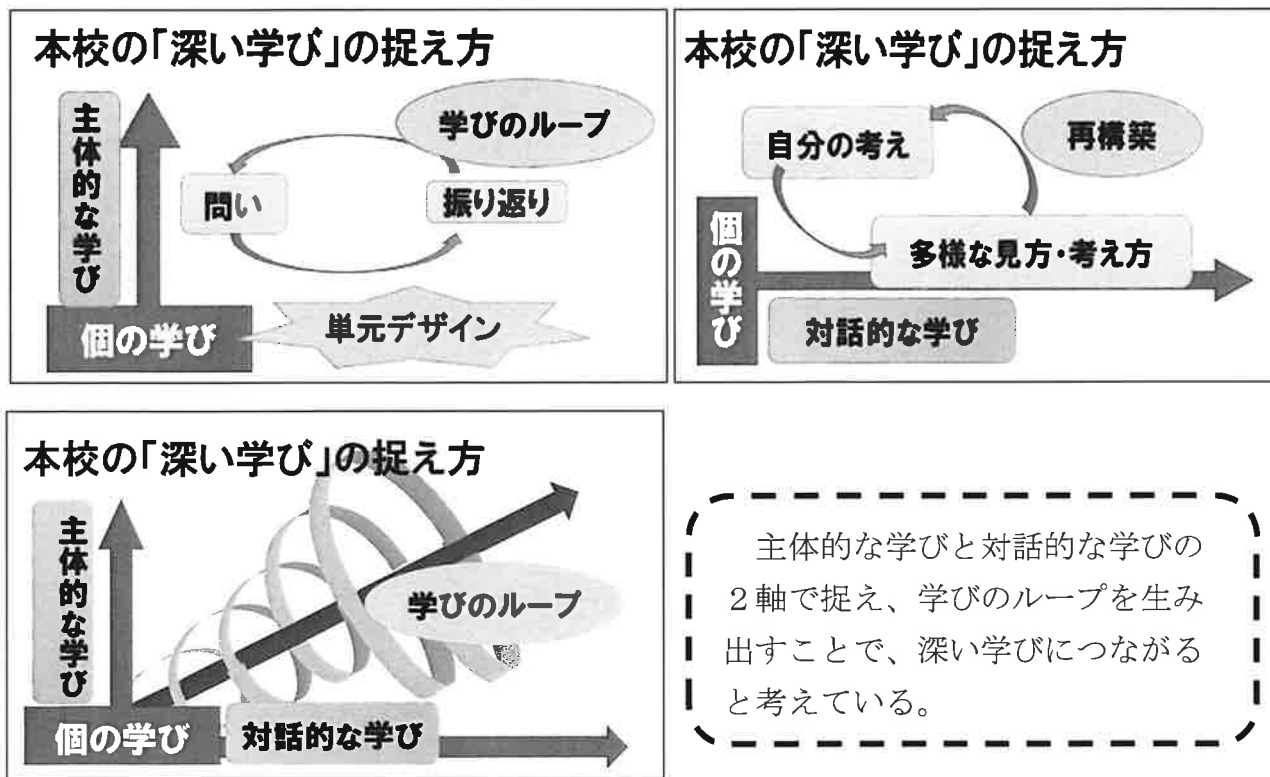
- (1) ゴールを意識した単元をデザインし、学びのループを取り入れた展開となるように授業を工夫すれば、主体的に学ぼうとする意欲が高まり、粘り強く探究しながら、深く学ぼうとする児童が育つであろう。
- (2) 対話の意義や目的を明確に示し、児童の思考が深まる場の設定や対話の方法を工夫すれば、協働しながら自己の思いや考えを広げ、深め合う児童が育つであろう。

5 研究の内容

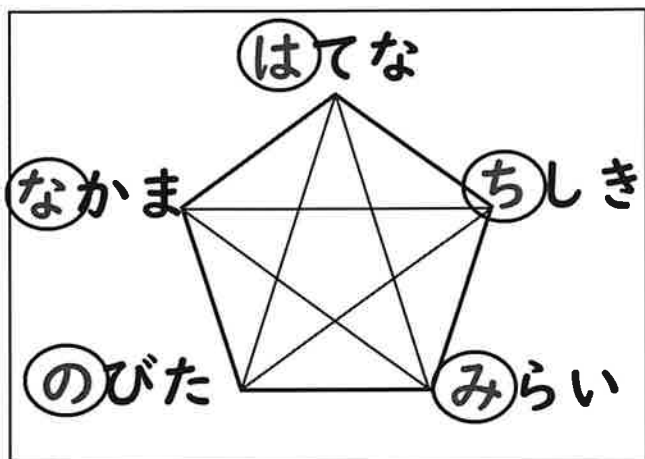
- (1) 主体的な学習を実現する授業改善
 - ア 基礎学力の定着及び効果的な支援
 - イ ゴールを意識した教科等横断的な単元デザイン
 - ウ 「問い」を生かした授業展開の工夫
 - エ 自分の学習状況や成長過程を把握し、新たな探究へとつながる振り返りの工夫
- (2) 対話しながら協働する仲間づくりや環境づくり
 - ア 対話を支える支持的風土の醸成
 - イ 対話力向上のためのコミュニケーションタイムの実践
 - ウ 児童・教師のファシリテーション力の育成
 - エ 授業と連動した家庭学習の充実

6 公開授業について

- (1) 本校の深い学びの捉え方



(2) 振り返りの視点 スターサイクル「はなのみち」



はてな	もっと知りたいこと とぎもん
なかま	友だちの考えから 学んだこと
のびた	自分のへんかや成長 できるようになった こといかせること
みらい	分かったことや思 ったこと
ちしき	

～メモ～



第1学年2組 道徳科学習指導案

指導者 木村 美鈴

1 日時 令和6年11月7日(木) 第2校時 10:00~10:45

2 単元名(教材名) 「ともだちだいすき つながるっていいな」(くりのみ 教育出版)

3 単元デザイン

単元目標
○ 友達と良い関係を築き、より良い学校生活を送っていくために大事なことは何か考え、実践しようとする意識を高める。

【深い学びのための方策(どんな見方・考え方で学習に取り組ませ深い学びに向かわせるか)】
○ 学級目標をテーマとした単元を構成することで、目標を実現するために児童一人一人が主体的に取り組むことができるようにする。「正直、誠実」「親切、思いやり」「公正、公平」「友情、信頼」の四つの内容項目を軸として考えることで、多面的・多角的に人とのつながりについて考えることができるようにする。
○ 自分事として受け止め、自己内対話をしながらしっかりと自分自身に向き合う時間を設け、児童一人一人に納得解を見付けさせる。そして、今後の生活に生かそうとする道徳的実践意欲を育てたい。

【主体的な学びのための工夫】
《環境づくり》
○ 学級の仲間とのつながりを意識できるように「友達」をテーマにした書籍を学級文庫に準備しておく。
○ 1時間、1時間の学びが継続していることが分かるように教室壁面に学習の足跡を残していく。
《授業づくり》
○ 道徳ノートを活用して、日常生活と結び付けて考えを深め、実践していけるようにする。
○ 学級が目指すゴールを明確にして、みんなで課題を解決していこうとする意識を高める。

【対話的な学びのための工夫】
○ 個人、ペア、全体の形態を取ることによって多様な考え方に触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
○ 役割演技を取り入れ、自己の内にある良い心に気付かせる。

4 指導観

- 本学級の児童31名は、自分たちが立てた学級目標の実現に向けて、自分の中のキラリン(かっこよさにつながるもの)を見詰め、より良い自分になろうと取り組んでいる。1学期の取組から目指す学級像に一步近づいてきたという実感を持っている児童も多い。また、友達との関わりでは、友達が困っていると優しく声を掛けたり手伝ったりする姿も見られ始めた。しかし、その時の自分の気分次第で友達との関わり方が変わったり、人によって態度が変わったりすることもある。このような状況を踏まえて、自分の気持ちだけで行動するのではなく、どんな時でもどんな相手でも、相手のことを親身になって考え、温かく手を差し伸べることができる児童を育てたいと考えた。

- 集団の生活において、自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては、望ましい人間関係を築くことはできない。互いが相手に対して思いやりの心を持って接するようにすることが不可欠である。友達との関わりが次第に増えてくるこの時期に親切にすることの良さについて気付かせ、互いに助け合っていこうとする道徳的心情を育てたい。

道徳科では、学級目標「目指せ!かっこいい1年2組」を実現できるように、単元を構成した。児童の目指す「かっこいい集団」とは、「きまりをまもるころ」「あいさつができるころ」「あきらめないころ」「た

すけあうところ」「おもいやりのところ」の五つの心を兼ね備えた集団であると考え。そこで、1学期は、一人一人がかっこいいキラリンスターとなれるよう「ぼくもわたしもキラリンスター」のテーマの下、「礼儀」「節度、節制」「規則の尊重」の内容項目に重点を置いて単元を構成し、個々の中にあるキラリンを磨いてきた。そのような中、児童は様々な学習や学校生活を通して、「一人じゃない。みんながいるから頑張れる。」と、仲間の良さも感じつつある。そこで2学期は、学校生活にも慣れ、交友関係も広がってくる時期でもあることから、人との関わりを大事にして集団として更に伸びて欲しいと考え、「ともだちだいすき つながるっていいな」をテーマとした。このテーマの下、一人一人がしっかりとつながり、集団としてまとまり、大きなキラリンスターになっていけるように「正直、誠実」「親切、思いやり」「公正、公平」「友情、信頼」の内容項目に重点を置き、他教科とのつながりも意識して取り組んでいきたい。

- 本教材は、きつねとうさぎの振る舞いが対比的に描かれている。北風の吹く寒い日、お腹をすかせたきつねとうさぎは、食べ物を探しに出掛ける。きつねは見付けたどんぐりを腹一杯食べ、残りを落ち葉で隠す。そして、うさぎに何もなかったと言う。それに対してうさぎは、食べ物がないきつねを気の毒に思い、やっと見付けた二つのくりの实のうち一つをきつねに差し出す。うさぎの優しさに触れ、きつねはぽろっと涙を流すという内容である。うさぎの姿からは、相手を思いやり、親切にすることの大切さやすばらしさに気付くことができる。一方で、きつねの姿からは人間誰もが持っている弱さを見ることができ、思いやりを持って接することが、個々が持つ良心に働き掛け、心を動かすことにつながると実感できる。

そこで本時では、まず親切な人とはどんな人かを問い、教材やねらいへの方向付けを行う。また、事前に親切な行動についてのアンケートを取り、児童の実態を把握しておく。教材理解では、冬の厳しい自然環境を画像で確認することで、きつねが自分本位になってしまうことも当然であることを押さえ、きつねの行動に対しても多面的・多角的な考えが出るようにする。また、うさぎときつねの行動の対比が理解できるように黒板に挿絵を貼りながら読み聞かせる。その後で、教材の登場人物のいいなと思ったところやどうしてかなと思ったところなどを自由に発言させ、児童の発言から本時の問いを提示することで、主体的な学びとなるようにする。

展開部分では、うさぎの行動について、一人でじっくり考える時間を与える。考えのまとまった児童からペアトークに移り、様々な意見に触れさせる。そして、全体で考えを共有する。その際、児童の発言を受けて問い返しをしていきながら、更に児童の思考を深めることができるようにする。うさぎの行動について考えを深める中で、きつねの涙にも触れる。きつねがうさぎの優しさに触れ、涙を流した後の場面を想像した役割演技を取り入れ、自分のことばかり考えていたことに気付いたきつねが自分の行動を後悔して恥じる気持ちや、うさぎの親切な行動に感動して、感謝する気持ちを実感させる。役割演技では、二人の関係が良い方向へ流れていくように仕掛け、本時の価値を今後につなげていけるようにしたい。

終末の振り返りでは、授業前の考えに立ち返り、親切にできた経験や親切を受けて喜んだ相手の言動で自分もうれしくなった経験を思い出させ、今後の実践への意欲につなげる。また、優しさがつながることで人との関係もつながっていき、これが学級目標の実現につながるという明るい展望を持たせたい。

5 指導計画 (全4時間)

単元を貫く問い「みんなで大きなキラリンになるためには？」

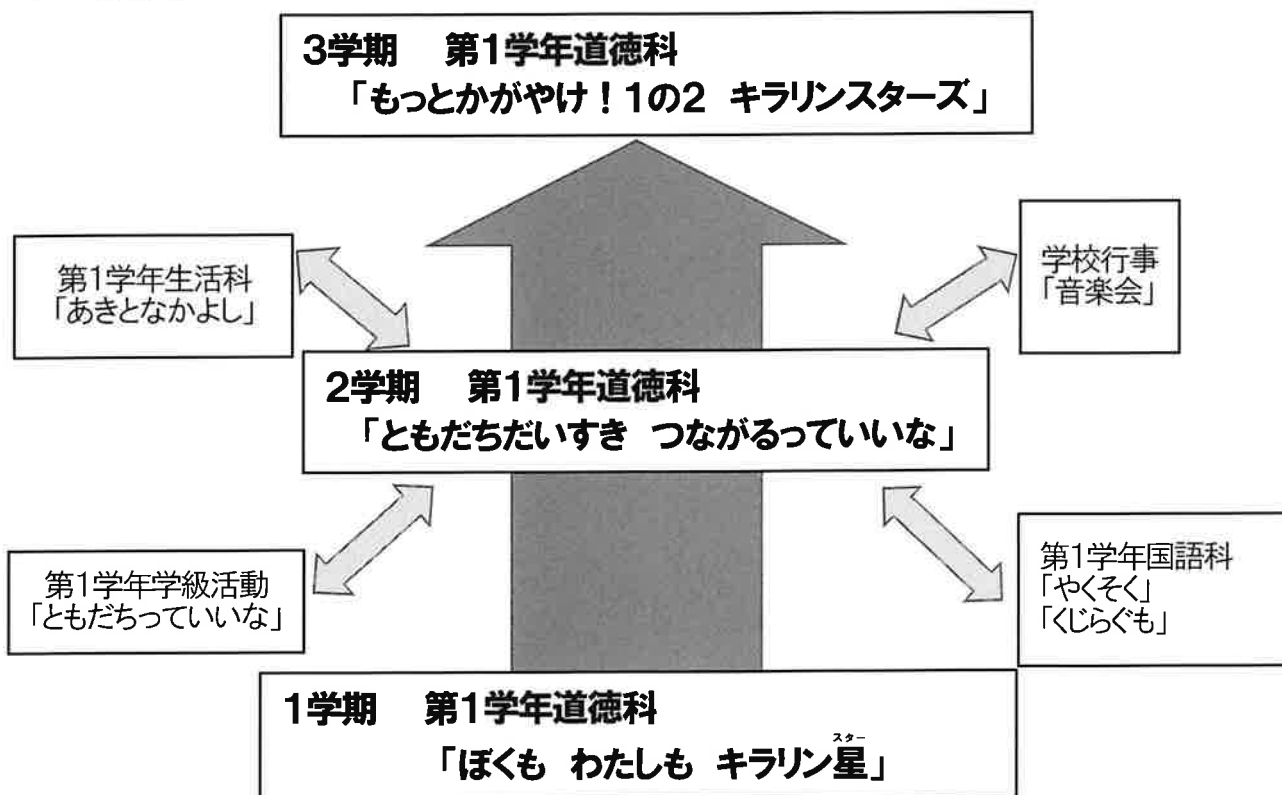
次	時	教材名・主題名	ねらい
1	1	「いたづらがき」 【正直、誠実】	友達との関わりの中で、自分の良心に対してうそやごまかしをしないで、素直に伸び伸びと生活しようとする心情を育てる。
	2 本時	「くりのみ」 【親切、思いやり】	相手の優しさに触れることで自分の身勝手な行動を振り返り、温かい心で親切にしようとする心情を育てる。
	3	「あしたはえんそく」 【公正、公平】	自分の好き嫌いとらわれず、誰に対しても公正、公平に接しようとする心情を育てる。
	4	「二わのことり」 【友情、信頼】	友達を思う心の大切さに気付き、友達と仲良くし、思いやりを持って助け合っていこうとする実践意欲を育てる。

教師が目指す「深く学んでいる子どもの姿」

【単元】 ○ 他者との意見交流や役割演技を通して多様な考えに触れ、自己を見詰め、より良く生活しようとする意識を高めている姿

- 【本時】
- ① 学んだことを振り返り、自己を見詰め直すことでより良い生き方について考えを深めている。
 - ② みんなで見付けた共通解を手掛かりに自己内対話によって自分の納得解を見付けようとしている。
 - ③ 目的を持っていろいろな人と意見の交流をしようとしている。
 - ④ 教材を通して、「みんなで考えてみたい」問いを見付け、意欲的に考えようとしている。

6 教科等横断的なつながり



7 本時の指導

内容項目	親切、思いやり (B 主として人との関わりに関すること)		
主題名	あいてをおもいやって		
ねらい	相手の優しさに触れることで自分の身勝手な行動を振り返り、温かい心で親切にしようとする心情を育てる。		
学習活動	時間	予想される子どもの意識の流れ	指導上の留意点(・) 評価(◎)
1 課題をつかむ	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 親切な人ってどんな人かな。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いやりのある人 ・ 優しい人 ・ 困った人を助けてあげる人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの経験を想起することで本時のねらいとする価値への方向付けをする。

<p>2 教材を読んで考える。</p> <p>個人→ペア</p> <p>全体</p>	<p>20</p>	<ul style="list-style-type: none"> うさぎはくりの実をあげていて優しいな。 きつねが涙を流しているところが心に残ったな。 どうしてきつねはうそをついたのかな。 どうしてきつねは涙を流したのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうしてうさぎは二つしかないくりの実を一つあげたのかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> きつねが腹ぺこだと言っていたからじゃないかな。 一日中食べ物が見付からなくてかわいそうだから。 自分だけ食べたらいけないなと思ったのかも。 きつねのことを考えるとあげずにはいられなかったのだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の状況をイメージしやすくするために挿絵を見せたり、うさぎときつねの行動を比べることができるように板書したりしながら読み聞かせをする。 教材文を聞いての自由な発言の中からみんなで考えていく本時のねらいへと迫っていく。 きつねの行為が全て悪いと捉えられないように、食べ物がない状況下での行為で、人間誰しもが持っている心だと気付けるように促す。 じっくり考えることができるように時間を取る。また、多様な価値観に触れることができるように、自由に交流できる場を設定する。 ペアで広がった考えを全体で共有する場を設定する。 児童の発言を受けて問い返しをしていきながら、更に児童の思考を深める。 涙の意味を問い、うさぎに親切にされたことで生まれたきつねの心情を捉えるようにする。 役割演技を通して、うさぎの優しさに触れて心が温かくなっていることに気付くようにする。
	<p>12</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうしてきつねは涙を流したのかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 本当は、腹一杯どんぐりを食べたんだ。 二つしかないのにぼくにくれるなんて。なんて優しいんだ。 ぼくは恥ずかしいな。 今度はぼくが、うさぎさんにあのどんぐりを渡そう。 	
<p>3 本時のまとめをする。</p>	<p>10</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の中にもこんな優しさはあるのかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 自分の優しいところを生かして、友達とつながっていきたいな。 相手のことを考えて親切にするっていいな。私にもできるかな。 思いやりの心で一杯にしたいな。 	<p>◎ 親切な行為の良さについて考えを深め、周りの人に親切にしようという気持ちが高まったか。</p> <p>【道徳ノート】、(発言、態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> うさぎの優しさに触れて心が温かくなっているのは誰かを振り返ることで、自分たちにも相手のことを思いやる心があることに気付き、明るい展望を持つことができるようにする。 優しさにつながることで人との関係が繋がっていき、それが自分たちが目指すものであることに気付くように言葉掛けをする。 児童の日常の出来事に触れながら、今後の意欲付けを図る。

8 研究の視点

- 単元構成を工夫し、児童の発言から問いを設定したことは、児童が教材の事象を自分事として捉え、思考を深めていくのに有効であったか。(L-ア)
- ペアや全体で話し合いを深めていく過程において、教師の問い返しは適切であったか。(H-イ、I-エ)

第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 村上 日菜子

- 1 日時 令和6年11月7日(木) 第2校時 10:00～10:45
- 2 単元名 せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう「紙コップ花火の作り方」
「おもちゃの作り方をせつめいしよう」～わくわくおもちゃランド～
- 3 単元デザイン

単元目標	
◎	共通、相違、事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。 (知(2)ア)
◎	語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 (思B(1)ウ)
◎	文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 (思C(1)ウ)
○	身近なことを表す語句の量を増やし、話や文の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。 (知(1)オ)
○	時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 (思C(1)ア)
評価規準	
【知識・技能】	
○	身近なことを表す語句の量を増やし、話や文の中で使うことで、語彙を豊かにしている。 ((1)オ)
【思考・判断・表現】	
○	「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ)
【主体的に学習に取り組む態度】	
○	進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したりし、学習の見通しを持っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

【深い学びのための方策（どんな見方・考え方で学習に取り組ませ、深い学びに向かわせるか）】
○ 児童が目的意識を持って主体的に書くことに取り組めるように、国語科・生活科・学級活動・学校行事をつないで教科等横断的な単元を設定するようにする。
○ ペアやグループでの交流を通して、表現の良さに気付いたり、より適切な表現を追究したりできるようにする。また、おもちゃランドを活用して実際におもちゃを動かしながら説明を聞くことで、対話が生まれやすくなるように活動の場を工夫するようにする。
○ 互いに称賛し合って、書いて伝える良さや楽しさを実感しながら、書く力を育成するようにする。

【主体的な学びのための工夫】
〈環境づくり〉
○ 隣の2年フリールームに「わくわくおもちゃランド」を作り、活動への意欲を高める。
〈授業づくり〉
○ おもちゃランドに掲示するための説明の文章を作るという単元のゴールを明確にする。

【対話的な学びのための工夫】
○ 書いた文を読み合うだけでなく、実際におもちゃで遊びながら対話をする時間を設定することで、児童の協働的な学びを生み出す。
○ 交流して気付いたことを共有することで、自分とは違う見方に気付くことができるようにする。



4 指導観

- 本学級の児童 30 名は、活発で何事にも前向きに取り組むことができる。4 月から毎日、日記の宿題を継続しており、書くことに対する抵抗が少なくなった。また、児童が書いた日記を背面黒板に掲示して紹介したことで、友達が書いた文章を読んだり、友達が使っている言葉を用いて良い工夫をまねしたりする姿が見られるようになってきた。

また、5 月と 9 月に行った言葉に関する調査の結果は右のとおりである。この結果から、言葉集めに伸びが見ら

しりとり言葉集め：5 分間		絵を見て文章を書く：5 分間	
5 月	9 月	5 月	9 月
15.4 個	21.0 個	96.1 文字	98.3 文字

れた一方で、文章を書くことに関する変化が小さいことが分かる。日記のように自由に書くことはできても、作文となると抵抗を感じて書けなくなる児童の姿が見られるのが現状である。

- 本単元は、小学校学習指導要領解説国語編「B 書くこと」の領域であり、説明文を読んで、その説明の工夫を生かして書くという領域複合的な単元の一つである。第 1 学年「じどう車くらべ」「じどう車ずかんをつくろう」、第 2 学年 1 学期に学習した「かんさつ名人になろう」での学習に加え、本単元では文章と写真とを対応させながら読んだり、順序が分かるように書いたりする力が求められる。本単元での学習は、3 学期に学習する「すてきなところをつたえよう」、第 3 学年「食べ物のひみつを教えます」での構成や順序、絵や写真の示し方を工夫して書く学習につながっていく。
- 本単元の指導に当たっては、関連教科である生活科「せかいでひとつ わたしのおもちゃ」と教科を横断して学びを進めてきた。生活科では、試行錯誤を繰り返しながら自分の好きなおもちゃを作ったり、改良したりしてきており、「わくわくおもちゃランド」に展示している自分が作ったおもちゃの中から、他者に説明したいものを選んで紹介するようにする。作り方や遊び方についての説明メモを書く活動の際には、手順に番号を付けたり、様子や動きを表すオノマトペや比喩をメモに入れたりする。そして、書いた文章を互いに読み合い、自分の文章と比較して良いところを見付けたり、書き方のアドバイスをしたりできるようにする。より良い文章にするため、書いた文章を互いに読み合い、良い工夫を伝え合いながら学習を進めていく。でき上がったおもちゃを説明する文章をおもちゃランドに掲示し、多くの人に見てもらうことを通して、書くことや表現を工夫することの楽しさ、伝える喜びを味わわせたい。また、本単元や生活科の学習で作成したおもちゃを学級活動の交流会や学校行事で活用していくことを知らせることで、児童が主体性を持って活動に取り組んでいけるようにしていきたい。

本時では、順序に沿った分かりやすい文章の書き方の工夫を見付け、伝えることを目標としている。まず、教師が書いた文章を提示し、全体で交流することで、工夫の見付け方や交流の仕方を確認する。次に、隣の「わくわくおもちゃランド」へ移動し、交流を行う。班を事前に決めておき、スムーズに交流が行えるようにする。各班、一人が発表するごとに、実際におもちゃを動かして、正しく説明ができているかを検証する。自分の書いた文章の良いところが視覚的に分かりやすくなるように、「いいねシール」を貼ることで、良いところが「見える化」できるようにする。また、書き方のアドバイスをもらった際にメモできるよう、付箋を用意しておくことで、自分の文章をより良くしたいという児童の思いにも応えられるようにする。最後に、全体交流や振り返りを行うことで、分かりやすく説明する文章の書き方や、その良さについて再認識できるようにしたい。

5 指導計画（全14時間）

単元を貫く問い
「おもちゃの作り方を分かりやすく説明する文章を書くには、どうすれば良いだろう？」

次	時	学習活動	評価		
			知・技	思・判・表	主体性
1	1・2	<ul style="list-style-type: none"> 「紙コップ花火の作り方」を読み、問いを持つ。 単元目標と学習の流れを話し合う。 			○
生活科 「せかいでひとつ わたしのおもちゃ」 おもちゃ製作					
2	3～6	<ul style="list-style-type: none"> 本文を読んで、紙コップ花火を作る。 筆者の工夫について話し合い、共有する。 	○	○	
3	7	<ul style="list-style-type: none"> 「おもちゃの作り方をせつめいしよう」を読んで、問いを持つ。 			○
	8～10	<ul style="list-style-type: none"> 作り方の説明の順序を考えて説明メモを書く。 友達と交流し、説明どおりに作ることができるかを確かめる。 作り方の清書をして、完成させる。 	○		
	11～13(本時)	<ul style="list-style-type: none"> 遊び方の説明の順序を考えて説明メモを書く。 友達と交流し、説明どおりに遊ぶことができるかを確かめる。 	○	○	
4	14	<ul style="list-style-type: none"> 遊び方の清書をして、完成させる。 単元全体を振り返る。 	○	○	

学校行事 「音楽会」 手作り楽器の音を取り入れた合奏

学級活動 「交流会を楽しもう」 特別支援学級の友達とおもちゃを使った交流

教師が目指す「深く学んでいる子どもの姿」

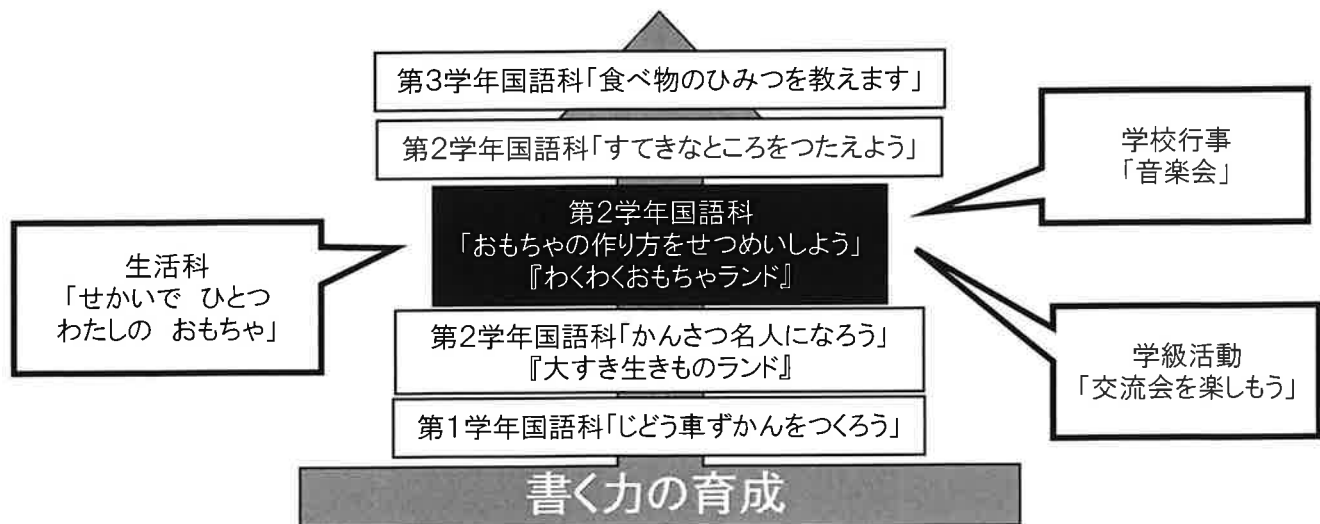
【単元】○ 作り方や遊び方の順序に沿った分かりやすい書き表し方の工夫を見付けて、自分の文章に生かしたり、友達にアドバイスしたりする姿。

【本時】① 友達からの「いいね」やアドバイスを受け止め、自分の文章の良さや改善点に気付いて、生かそうとしている。

② 分かりやすい書き方を理解し、友達の文章の良いところを伝えている。

③ 順序を表す言葉や例えを使った文章を発表している。

6 教科等横断的なつながり



7 本時の指導

目標	遊ぶ順序に沿った分かりやすい書き表し方の工夫を見付け、伝えることができる。		
学習活動	時間	予想される子どもの意識の流れ	指導上の留意点(・) 評価(◎)
1 本時の目当てを確認する。	10	<div data-bbox="574 403 1077 504" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 分かりやすく書く工夫ってどんな工夫だったろう？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まず」「次に」を使うことだね。 ・ 文を短く書くことかな。 <div data-bbox="574 616 1077 716" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 先生が書いた文章には、どんな工夫が使われているかな。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順序を表す言葉があるね。 ・ 例えを使っているよ。 <div data-bbox="574 840 1077 940" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 自分が書いた文章には、ちゃんと工夫が使われているかな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までを振り返り、書くときのポイントを思い出せるようにする。 ・ 教師が書いた文章について話し合うことを通して、工夫の見付け方や交流の仕方を確認する。 ・ 「わくわくおもちゃランド」へ移動をする。
2 グループで互いの文章を読み合う。	20	<div data-bbox="574 974 1077 1019" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> どんな工夫があるのかを見付けよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「はじめに」「次に」がいいね。 ・ 「～みたい」という言葉がいいね。 ・ 遊びのこつを書いてあるのもいい。 ・ ○○cmと数字が書いてある。 ・ 「いいねシール」を貼ろう。 	◎ 遊ぶ順序に沿った分かりやすい書き表し方の工夫を見付け、伝えることができているか。【思・判・表】(観察、ワークシート)
3 全体で大事なことをまとめる。	5	<div data-bbox="574 1276 1077 1377" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 分かりやすい書き方の工夫についてまとめよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順序を表す言葉を使う。 ・ 内容のまとまりごとにまとめる。 ・ 長さや大きさは数字や例えを使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流時に「いいね」をもらったところを発表し、共有することで、順序良く書く良さを再確認できるようにする。
4 これからの学習を確認し、本時を振り返る。	10	<div data-bbox="574 1545 1077 1601" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> たくさん工夫することができた </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順序良く書けたか確認しよう。 ・ 例えを使って書いてみよう。 ・ 上手にできそうだ。楽しみだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スターサイクル「はなのみち」を提示し、本時の学びを振り返る。

8 研究の視点

- ・ 教科等横断的な単元をデザインし、単元を貫く問いを解決していく授業展開は、児童が主体的に活動し、深い学びに向かう上で有効であったか。(F-ア、L-ア)
- ・ 文章の良いところが視覚的に分かりやすくなるように「いいねシール」を貼り、良いところを「見える化」して対話させたことは、深い学びに向かう上で効果的であったか。(G-ウ、N-エ)

第3学年1組 算数科学習指導案

指導者 石井 雄一郎

- 1 日時 令和6年11月7日(木) 第2校時 10:00～10:45
- 2 単元名 「円と球」～円オリンピックをしよう～
- 3 単元デザイン

単 元 目 標
○ 円や球について、構成の仕方を考える活動や観察する活動を通して、円や球について理解するとともに、性質を見だし、学習や生活に生かそうとする態度を養う。
評 価 規 準
<p>【知識・技能】</p> <p>○ 円や球の構成要素になる、中心、半径、直径を理解し、コンパスを使って円をかいたり、長さを比較したりできる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○ 回転した点の軌跡として円の形を捉え、円や球には中心があることに気付き、作図の仕方を考えたり、半径や直径について調べたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○ 円や球の性質を進んで調べようとしている。また、身の回りから円や球を見付けようとしたり、円の持つ美しさに気付いたりして、学習や生活に生かそうとしている。</p>

<p>【深い学びのための方策(どんな見方・考え方で学習に取り組ませ深い学びに向かわせるか)】</p> <p>○ 円の性質を利用して、模様作りや円オリンピックのマーク作りを通して、円の優れた機能性や美しさに気付かせ、日常生活に生かすことができるようにする。</p> <p>○ 輪投げの周りに円をかく活動や粘土で球を作る活動を通して、円や球の構成要素に着目して多様な視点から観察できるようにする。</p>

<p>【主体的な学びのための工夫】</p> <p>○ 振り返りの視点を計画的に組み込み、振り返りを生かした問いを設定する(学びのループを取り入れる)ことで、児童の主体的な学びを大切にする。</p> <p>○ 円や球の学習を生かしたスポーツ大会(円オリンピック)をゴールとして設定することで、児童の興味・関心を高める。</p>



<p>【対話的な学びのための工夫】</p> <p>○ 問い返しや思考を深める発問を工夫することで、児童が自分の言葉で説明する機会を増やす。</p> <p>○ 児童が多様な手段で課題解決できるように、学習形態を選択できるようにする。</p>
--

4 指導観

- 本学級の児童全24名は、算数科の学習に真面目に取り組んでいる。しかし、基本的な計算問題や具体物の操作活動などは意欲的に取り組めるものの、式の意味を説明することや自分の考えを図や絵で表すことが苦手な児童が多い。そのため、順序を示す接続詞を教師が使いながら説明の手本を見せることで、順序立てて説明できるようにしてきた。また、グループで説明し合ったり、教え合ったりするなどの活動を多く取り入れることで、絵や図のかき方を友達から学び、それらを指し示しながら自分の考えを説明できるようになってきている。

児童はこれまでに、身の回りの円や球に接する経験を多くしてきている。児童にとって「丸い」という言葉は、いろいろな意味を持っている。楕円形を丸い形と捉えている児童や、角がないという意味での「丸い」ということもある。また、円の中心を「真ん中」と表現するなど、円や中心の概念を正確に理解している児童は少ない。円と球の学習を通して、円や球について理解し、それらの性質を見いだすことで円の持つ美しさの秘密に気づき、さらには図形についての見方や感覚を豊かにすることを期待している。

○ 本単元は、小学校学習指導要領解説算数編第3学年のB(1)「二等辺三角形、正三角形などの図形」に示された円とその性質について指導するために設定されたものである。第1学年では、ものの形に着目して、その形の特徴を捉えることを学習してきている。また、ボールの形は転がりやすい形であること、箱の形は、重ねて積み上げることができる形であることなどの機能的な性質についても学習している。この学習を受けて、第3学年では、抽象的に捉えてきた円と球について観察、分類、構成、作図などの活動を通して理解を深めていく。ここでは、児童が円や球を身近なものとして捉え、日常生活に取り入れられる有用性を実感させるため、学級活動や総合的な学習の時間と関連付けながら進めていく。

○ 本単元の「つかむ」では、円の形に着目させるため、長方形の線上から輪投げをさせる。長方形の線では、立てたコーンの中心からの距離が場所によって異なるため、不公平であることが分かるはずである。なぜ、不公平になるのか理由を問うことで、中心から等しい距離になる必要性があることに気付くようにする。中心から等しい距離にするためにはどうしたらよいかを考えるようにし、円の性質に気付かせ、次時のコンパスでの作図につなげていく。また、児童の振り返りを基に単元を貫く問いを設定する。ここでは、単元末に円を使ったスポーツ大会「円オリンピック」を開催することを知らせ、どのような競技ができるか児童にアイデアを出させ、円の学習への意欲を高める。「調べる」では、運動場にどのようにして円をかいたか振り返り、中心から等距離にある点の軌跡として円を捉えるようにしていく。中心、半径など、円の構成要素について考え、コンパス操作の習熟を図る。その後、円オリンピックで使用するビー玉転がしの長さを測り取る活動を行う。具体的な長さの数値が分からなくても、コンパスを使えば、等しい長さを写し取ることができる良さに気付くようにする。

「生かす」場面では、実際にオリンピックで使われた五輪マークや円を使った他のマークがあることも知らせ、自分でも円を使ったマークを作ってみたいという意欲を高める。また、ここで作った五輪マークは実際に円オリンピック会場に掲示することで、児童の学びの成果を大切にしていく。

本時は、円オリンピックの種目の一つである的当ての的を作るという導入から始まる。画用紙で作って大きさの違う3枚の円を渡し、提示した的と同じ形を作るように促す。このとき、中心が分からないと正確な的を作ることができないことに気付かせるために問い返しを行い、問題を焦点化していく。そして児童から中心を見付けるために必要な条件が出るように、発問をしながら全体で共有していく。このとき、切ったり折ったりするなど、様々な方法が出てくるように、道具や手段を自分で選択できるようにする。その後、全体で考えを共有し、様々な方法で中心が見付けられることを確認する。さらに円周は中心から等しい距離になっていることに着目している児童の意見を取り上げ、円の性質をふまえて紙を折ることで円の中心を見付けられることを押さえる。その後、大きさの違う円を折って再度中心を見付ける活動を取り入れることで、直径の定義について知らせる。その際、どんな大きさの円でも直径の半分が中心にあることや直径は半径の2倍であることを理解させる。児童の振り返りから次時の問いを立てる。学びのループにつなげるため、「みらい」を視点の一つに設定する。最後に、次時での的を完成させることを知らせ、意欲を高めたい。

5 指導計画（全10時間）

単元を貫く問い「丸い形にはどんな秘密があるのだろう？」

次	時	学 習 活 動	評価規準		
			知・技	思・判・表	態 度
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> 運動場で輪投げをする活動を通して、「円」について知る。 単元を貫く問いを立てる。 			○
	【学級活動】「学級スポーツ大会を開こう」 ・ 学級スポーツ大会「円リンピック」に向けた活動計画を立てる。				
調べる	2	<ul style="list-style-type: none"> 円に着目し、円の構成要素について考える。 コンパスの使い方を知る。 	○		
	3	<ul style="list-style-type: none"> 半径が決まっている円をかく。 いろいろな大きさの円をかいたり、身の回りにある円を探したりする。 	○	○	
	4	<ul style="list-style-type: none"> コンパスの使い方を練習する。 	○		
	5（本時）	<ul style="list-style-type: none"> 的当ての的を使って円の中心を見付ける。 		○	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ビー玉転がしのコースの長さをコンパスを使って調べる。 			○
	7	<ul style="list-style-type: none"> 粘土を使って、球の性質を知る。 		○	
生かす	8	<ul style="list-style-type: none"> コンパスを使った模様作りを行う。 	○	○	
	9	<ul style="list-style-type: none"> 円リンピックマークを作る。 		○	
	10	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめをする。 	○		○
深める	【総合的な学習の時間】「教えておじいさん、おばあさん」 ・ 地域の高齢者の方と円リンピックを通して交流する。				

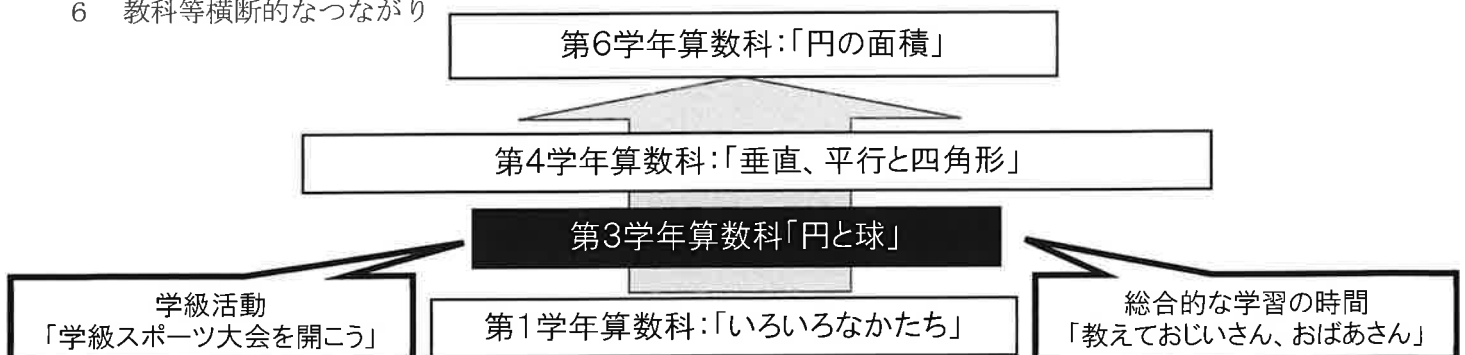
教師が目指す「深く学んでいる子どもの姿」

【単元】 ○ 数学的活動を通して円や球の性質を理解し、図形を構成する要素に着目しながら、円の作図方法を考えたり、球の直径等について円と比べながら考察したりしている姿。

【本時】 ① 児童が立てた学習課題について、友達と協働しながら多様な見方・考え方を働かせ、問題解決しようとしている。

② 数学的な活動を通して、円の性質に気付き、その良さを見いだそうとしている。

6 教科等横断的なつながり



7 本時の指導

目標	○ 既習内容を基に、試行錯誤を繰り返しながら、円の中心の見付け方を考えている。 ○ 円の中心を見付ける活動を通して、直径と半径の関係を理解している。			
	学習活動	時間	予想される子どもの意識の流れ	指導上の留意点(・) 評価(◎)
つかむ	1 課題をつかむ。	6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どうやったら先生のように上手に円を重ねて的を作れるのかな。</div> <ul style="list-style-type: none"> 半径が分かればできるのかな。 どうしたらいいか分からない。 中心が分かればできそうだけど。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさの違う3枚の円を用意し、実際に操作して円を重ねられるようにする。 円の中心に目を向けることができるように問い返しを工夫する。 問題を解決するために必要な道具や使える既習の学習内容を児童から引き出す。
	2 問いを立てる。	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">円の中心はどうやったら見付けられるのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> コンパスを使いたい。(道具) はさみがあるかな。(道具) 半径を使ってみよう。(既習内容) 	
調べる	3 円の中心を探す。 ・ 一人で ・ 友達と ・ 先生と	15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">いろいろな方法を考えてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 紙を折るといいかもしれないな。 道具がなくてもできるのかな。 半径は0cmだから、その2倍の長さになればいいのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体性を尊重するため、話し合いの形態を児童が選択できるようにする。 ◎ 様々な方法を用いながら、円の中心の見付け方を考えている。 【思・判・表】(ノート、様態)
	4 見付け方を紹介し合う。	6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">中心の見付け方が分かったよ。</div> <ul style="list-style-type: none"> 直線を引いてもできるよ。 コンパスで探すのは、ちょっと正確ではないかも。 	
生かす	5 直径の定義を理解する。	8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">直径は半径の2倍なんだな。</div> <ul style="list-style-type: none"> 直径が一番長い直線になってるな。 直径の半分のところ为中心だね。 	<ul style="list-style-type: none"> 円の折り目に着目しながら、円の直径が理解できるようにする。 児童自身の言葉で本時のまとめを行う。
	6 学習のまとめをする。	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">円の中心は、直径の半分のところにあったよ。直径は半径の2倍だね。</div>	
	7 今日の学習を振り返る。	4	<ul style="list-style-type: none"> 直径と半径が大事だったな。 円の秘密をもっと知ることができたな。 	
深める	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">視点</div> <p>「み」：みらい 「な」：なかま 「ち」：ちしき</p>			<ul style="list-style-type: none"> 学習到達度グラフを使い、自分たちの学びの達成度を確認する。 次時に的当て作りをすることを知らせ、意欲を高める。

8 研究の視点

- 単元デザインを基に、児童が立てた問いを問題解決していく授業展開は、児童が主体的に問題を解決し、学びを深めるために有効であったか。(L-ア)
- 協働的な学びの場の設定は、児童が数学的な見方・考え方を働かせ、円の中心を見付ける学習活動において深い学びにつながったか。(N-エ)

第4学年2組 算数科学習指導案

指導者 濱本 星子

- 1 日時 令和6年11月7日(木) 第2校時 10:00~10:45
- 2 単元名 「調べ方と整理のしかた」～安全・安心な明倫小学校にしよう～
- 3 単元デザイン

単元目標
○ 日常の事象について、二次元の表を用いたデータの分類整理の仕方を理解し、それらのデータの特徴や傾向を捉え、その結論について考察することを通して、統計的な問題解決の良さに気づき、学習や自分たちの生活に生かそうとする態度を養う。
評価規準
【知識・技能】 ○ データを二つの観点から分類整理する方法を理解し、二次元の表に整理したり、表を読んだりすることができる。 【思考・判断・表現】 ○ データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切な表を選択し、その結論について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○ 進んでデータを収集し、それらを分類整理したり表を読み取ったりすることを通して、統計的な問題解決の良さに気づき、学習や自分たちの生活に生かそうとしている。

【深い学びのための方策（どんな見方・考え方で学習に取り組ませ深い学びに向かわせるか）】 ○ 見方・考え方を働かせながら多様な分類整理の仕方を考えたり、図を用いて数学的に表現したりしやすいうように、個々のデータをカードにし、ゲーム感覚で仕分けができるようにする。 ○ 二次元の表から読み取れることを全体で共有したり議論したりする場を設定することで、別の観点や立場から捉え直し、妥当性について考察できるようにする。
--

【主体的な学びのための工夫】 ○ 振り返りの視点を計画的に組み込み、振り返りを生かした問いを設定する（学びのループを取り入れる）ことで、児童の主体的な学びを大切にする。 ○ けが防止を呼び掛けるマスコット作りや学級目標の見直しなど、身近な題材をゴールに設定することで、目的意識を持って取り組めるようにする。
--

【対話的な学びのための工夫】 ○ 問い返しや思考を深める発問を工夫することで、児童が自分の言葉で説明する機会を増やす。 ○ 児童が多様な手段で課題解決できるように、学習形態を選択できるようにする。

4 指導観

- 本学級の児童全34名は、算数科の学習において、もっとできるようになりたい、問題を解きたいという思いを持っている。1学期に行った「折れ線グラフ」では、グラフの用い方を理解し、グラフの特徴や傾向を読み取る学習に取り組んできた。授業では、二つのグラフを比べて判断したことを考察し、

より適切なグラフに作り替えて考察を深めることができるようにしてきた。しかしながら、表を見てグラフをかいたり、基本的な数値を読み取ったりすることはできるものの、グラフを基に自分の考えを説明することに課題がある児童が多かった。

また、これまで係活動や国語科の新聞作りなどでアンケートを取る経験を多くしてきている。アンケートを取る際に難しいと感じていることを調査すると、アンケートをまとめることや活用する方法が分からないという回答があった。アンケートを取っても、その結果を考察して生かすことが十分にできていないのが現状である。アンケート結果をどのように分類整理すればよいか、結果からどのようなことが考察できるかなどを学習することで、児童が日常生活にもっと関心を持ったり、疑問を広げたりすることを期待している。

- 近年のデータサイエンスの進展によって、いろいろな場面でデータに基づいた意思決定が重視されるようになってきた。小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説算数編の改訂のポイントの一つに「統計教育の充実」が掲げられ、算数科では統計に関わる領域「Dデータの活用」が新たに設けられた。本単元は、その「Dデータの活用」(1)に位置付けられている。第3学年では、身の回りにある事象について、目的に応じて観点を決め、資料を分類整理したのち、表やグラフを用いて表したり、データの特徴を捉えて考察したりして、見いだしたことを表現する学習をしてきた。この学習を受けて、本単元では、既習の内容を生かしながら事象を二つの観点から分類整理する方法として二次元の表を取り上げ、表にまとめたり、その表を基に事象を考察したりする。
- 本単元は、図画工作科と学級活動の二つを教科等横断的な学習に位置付けている。「問題－計画－データ分析－結論」というような探究的プロセスの準備段階として設定した単元デザインである。まず、「つかむ」では、データを活用しようとする意欲を高めるために、養護教諭から本校のけがの状況について話を聞く。そこから、もっと安全・安心な明倫小学校にするために自分たちができることはないかを考えていく。その後、けがについて詳しく調べ、場所に応じてけがの防止を呼び掛けるマスコットを作るというゴールを設定する。一次元の表だけでは場所に応じた呼び掛けができないことに着目し、振り返りを基に単元を貫く問いを立てる。「調べる」では、データをカード化して、ある観点から起こり得る場合を分類して項目を決めるなどの見方・考え方を働かせながら、二次元の表に分類整理する方法を考えられるように工夫する。完成した二次元の表から、けがの様子について考察し、結論を基にその場所に応じたけが防止のマスコットを作る図画工作科の学習へつなげる。「生かす」の終末では、学級のアンケート結果を活用し、学級目標である「決まり」が守れていないことに着目していく。今度は、学級の安全・安心について考えるようにし、そこから「決まりを守ることは、安全・安心につながるのか」という新たな課題を設定する。課題を解決するためには、どんなデータが必要かを児童と共に考えていく。

本時では、まず、前時の学級活動で取り上げた学級目標の一つ、「決まり」についてのアンケート結果を振り返る。本校のけが調べのデータから実際に廊下でのけががあることに着目し、「決まりを守ることとけがは関係があるのか」という問いに焦点化していく。次に、一次元の表をそれぞれ示すことで、一次元の表だけでは分からないことは、二次元の表にしていく必要があることに気付くようにする。答えの組み合わせによって四つの場合があることを押さえ、四つの場合の表の見方を理解していく。ここでは、表が未完成であることを知らせ、空欄は、データの個数を数えなくては分からないのか投げ掛ける。そこで、「どうすれば、人数を出すことができるだろうか」という新たな問いを立て、計算で数を求める活動につなげいく。「深める」では、二次元の表を読み取り、決まりを守ることと、けがについての関係を考察することで本時の問いに対する答えを導き出していく。その後の学級活動では、考察の結果から決まりの意義を理解した上で、改善策を考えていく。そして、データを活用することで日常生活の問題を解決できる良さを感じ、既存のルールや常識を改めて捉え直し、作り直そうとする実践力を育てる機会としたい。

5 指導計画（全6時間）

単元を貫く問い
「二つのことがらを表に整理すると、どんなことが見えてくるのだろう？」

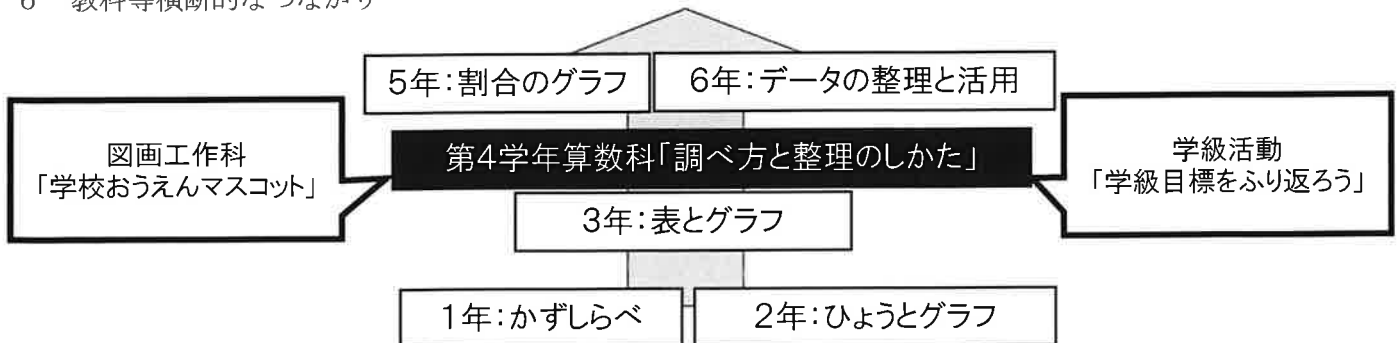
次	時	学 習 活 動	評価規準		
			知・技	思・判・表	態 度
つ か む	1	<ul style="list-style-type: none"> 学校でけがをする人が多いことに注目し、けが防止を呼び掛けるマスコットを作る計画を立てる。 場所に応じたマスコットを作るために、目的に応じて必要なデータや表について考える。 振り返りから「単元を貫く問い」を立てる。 		○	○
	2	<ul style="list-style-type: none"> 二つの観点で分類整理する方法を考える。 		○	
調 べ る	3	<ul style="list-style-type: none"> 二次元の表のかき方を理解し、落ちや重なりがないように二次元の表をかく。 	○		
	4	<ul style="list-style-type: none"> 他の観点で二次元の表に分類整理する。 	○		
	5	<ul style="list-style-type: none"> 二次元の表を見て考察し、場所にふさわしいマスコットを考える。 学習内容の理解を確認する。 		○	○
生 か す	<p>【図画工作科】「学校おうえんマスコット」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の場所にふさわしい形や色のマスコットを考えて、製作する。 学級の安全・安心について振り返り、「決まり」について新たな課題を設定する。 				
深 め る	6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 示された条件を基に、二次元の表を整理する。 結論について考察し、問題を解決する。 		○	
	<p>【学級活動】「学級目標を振り返ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 明らかになった学級の課題をまとめ、改善策を考える。 				

教師が目指す「深く学んでいる子どもの姿」

【単元】 ○ 問題を解決するために、データを目的に応じて集めたり、分類整理の仕方を考えたりして表に表すなど多様な見方・考え方を働かせながら課題に向かう姿。

【本時】 ① 児童が立てた学習課題を追究し、問題を解決することを通して、統計的な問題解決の良さを感じ、学習や生活に生かそうとしている。
 ② 友達と協働しながら、表を多面的に捉え、データを考察している。

6 教科等横断的なつながり



7 本時の指導

目標	○ 示された条件を基に、二次元の表に分類整理できる。 ○ 二次元の表を読み取り、データの特徴や傾向を考えたり話し合ったりしている。																								
	学習活動	時間	予想される子どもの意識の流れ	指導上の留意点(・) 評価(◎)																					
つかむ	1 学級目標から本学級の安全・安心について考える。	3	決まりが守れていれば、安全・安心なのかな？ ・ 実際に、廊下でけがをした人がいるね。 ・ ぶつかっている人が多そう。	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決する目的でデータを取ったことを確認する。 予想を立てることで、児童からの調べてみたいという意欲を喚起する。 一次元の表をそれぞれ提示することで、二次元の表の必要性に気付くようにする。 組み合わせによって四つの場合があることを押さえる。 児童の主体性を尊重するため、話し合いの形態を児童が選択できるようにする。 どのように空欄にあてはまる数を見つけていったのか計算の仕方を確認する。 表を枠で囲むことで縦や横の見方が視覚的に分かるようにする。 表の数値の意味を確認しながら、表を整理する。 																					
	2 問いを立てる。		決まりを守ることで、けがは本当に関係があるのだろうか？																						
調べる	3 二次元の表について考える。	5	一次元の表では、二つの事柄を見ることができない。 ・ この二次元の表はどうやって見るのかな。																						
	4 表の人数の求め方を考える。 ・ 一人で ・ 友達と ・ 先生と		どうすれば、人数を出せるのだろうか？																						
生かす	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="2">ぶつかった</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>ある</th> <th>ない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="2">走った</th> <th>ある</th> <td>20</td> <td>8</td> <td>28</td> </tr> <tr> <th>ない</th> <td>1</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <th colspan="2">合計</th> <td>21</td> <td>13</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>				ぶつかった		合計	ある	ない	走った	ある	20	8	28	ない	1	5	6	合計		21	13	34	7	全部数字が分からなくてもできるよ。 ・ 合計を足すと 34 人になる。 ・ 走ったことがある人で、ぶつかったことがない人の出し方は、引き算だ。
								ぶつかった			合計														
		ある	ない																						
走った	ある	20	8	28																					
	ない	1	5	6																					
合計		21	13	34																					
5 表を整理する。	10	21 は、ぶつかったことがあると答えた合計の数だね。																							
6 考察する。 ・ グループ	15	走ったことがない人より、走ったことがある人の方がぶつかっているね。 ・ 走ったことがある人が多いね。 ・ 予想どおりだった。																							
深める	決まりを守ることで、けがは関係がある。			◎ 二次元の表を読み取り、データの特徴や傾向を考えたり話し合ったりしている。 【思・判・表】(様態・ノート)																					
	7 今日の学習を振り返る。 視点 「ち」:ちしき 「み」:みらい 「は」:はてな	5	二次元の表にまとめることで見えなかったものが見えるようになった。 ・ データを読み取ることは面白いな。 ・ 他の学年もそうなのかな？																						

8 研究の視点

- 児童が立てた問いを基に問題を解決していく授業展開は、児童が主体的に問題を解決し、学びを深めるために有効であったか。(L-ア)
- 協働的な学びを取り入れた授業展開は、整理した表を多面的に捉え、数学的な見方・考え方を働かせながら表の特徴や傾向を読み取る深い学びにつながったか。(N-エ)

第5学年2組 国語科学習指導案

指導者 平山 琴美

- 1 日時 令和6年11月7日(木) 第2校時 10:00~10:45
- 2 単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう
「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」
- 3 単元デザイン

単元目標	
○ 原因と結果など、情報と情報の関係について理解することができる。	(知(1)オ)
○ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。	(思B(1)エ)
○ 目的に応じて、文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。	(思C(1)ウ)
○ 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。	(知(3)オ)
○ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。	(思C(1)ア)
評価規準	
【知識・技能】	
○ 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	((2)ア)
○ 日常的に読書に親しみ、自分の考えを広げることに読書が役立つことに気付いている。	((3)オ)
【思考・判断・表現】	
○ 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	(B(1)エ)
○ 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。	(C(1)ア)
○ 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	(C(1)ウ)
【主体的に学習に取り組む態度】	
○ 粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しを持って、読み取った筆者の工夫を生かして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。	

【深い学びのための方策（どんな見方・考え方で学習に取り組ませ、深い学びに向かわせるか）】

- 国語科・総合的な学習の時間を統合した単元を設定し、児童が目的意識を持って主体的に書くことに取り組めるようにする。
- 自然環境について自分でテーマを選んで文を書くことで、他者に伝えたいという意欲を高める。また、書いた文を読み、対話し合っ、表現の良さに気付いたり、より適切な表現を追求したりできるようにする。
- 発信する対象を明確にし、新聞やリーフレットなど、発信方法を工夫することで、進んで他者に伝えようとする意欲を高め、学びの広がりや深まりに向かうようにする。

【主体的な学びのための工夫】

(環境づくり)

- 「環境問題」に関するコーナーを設置する。

(授業づくり)

- 自然環境を守るための報告書を他者に発信するという単元のゴールの明確化を図る。

【対話的な学びのための工夫】

- 表現の良さや工夫について、いろいろな相手と対話する時間を設定し、児童の協働的な学びを生み出す。
- 文章を推敲する際には、「資料と文章との関わり」についても着目できるように、観点を明確に提示する。

4 指導観

- 本学級の児童 36 名は、感想文や日記を書く宿題に継続して取り組んでおり、文章を書くことについては徐々に慣れてきている。一つの出来事を情景が想像できるくらい詳しく書くことができる児童がいる一方、出来事を羅列するだけの児童もいる。そこで、身近なテーマを提示したり、文章を「初め・中・終わり」の構成を意識して書けるように指導を継続したりしている。また、グラフや表などの資料から読み取ったことを文章で書く練習も継続して行っている。国語科の「みんなが使いやすいデザイン」では、伝えたいことを整理して報告する文章を書く学習を行った。読み手を意識して報告書を書くことは比較的できていたが、多くの情報の中から必要な情報を取捨選択することや適切な文章に直すことが困難な児童が多かった。ペアやグループでの交流活動で多様な考え方に触れる良さに気づき、意欲的に交流をする児童がいる一方、全体として活動に消極的な児童が多いため、有意義な交流にまでは至っていない。
- 本単元は、小学校学習指導要領における指導事項「思考力、判断力、表現力等」B（1）「エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」、C（1）「ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」を受け、設定されているものである。説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」とそこで学んだことを生かして書く教材「自然環境を守るために」で構成される複合単元である。「固有種が教えてくれること」では、地図、表、写真、グラフ等の多様な資料を提示しながら筆者が主張を展開している。一つ一つの資料の意味や効果を考えることを通して、資料を利用して自分の考えを伝える良さに気付くことができる。さらに、それを生かして「自然環境を守るために」では、資料を用いながらこれからの環境問題について自分の考えを書く活動を行う。個人が学んだ内容を生かせる展開となっており、自分の考えを文章に書くことに、主体的に取り組める教材であると考えられる。
- 本単元の指導に当たっては、まずは、「固有種が教えてくれること」の教材を使って、筆者の考えや説明の工夫を探しながら読み、その工夫の効果について考える。次に、「自然環境を守るために」の学習では、自分たちが選んだ身の回りの環境問題について資料を活用して文章にまとめる。それを新聞やリーフレットなどにまとめ、地域の方や家族、他学年の児童に発信することをゴールとし、学習を進めていく。特に、相手意識を持たせるために「だれに」「何を」「どのような状態にしたいか」を明確にしてから活動に取り組むようにする。発信する対象や目的に合わせて、使う言葉や資料、内容の伝え方などを工夫させたい。また、資料からどんな情報が読み取れるのかを考えさせる活動を取り入れ、資料があることによって説明の内容が分かりやすく、説得力があるものになることを押さえる。さらに、文章と資料を照らし合わせる場面では、資料の効果をより深く考えるため、複数の資料を比較し、適切な資料を選ぶ活動を取り入れるようにする。

本時では、事前に友達の記事を読み、良い点や改善点を見付け、自分の意見を持って交流に臨めるようにする。こうしておくことで、交流の場面で多様なアドバイスを得られることが期待できる。さらに、児童間の交流で悩んだときや意見を聞きたいときには、Web会議システムで複業先生（ゲストティーチャー）につなぎ、自由に相談できるコーナーを設ける。

また、4人ずつのグループを作り、少人数で意見を出し合いながら学習を進めていく。グループごとに交流する際には、紙媒体を活用し、アドバイスを付箋に書いて貼る。また、ロイロノートの共有ノートを活用し、アドバイスに応じて個人が同時に修正ができるようにする。活動に応じてICT機器と紙媒体を使い分ける。

全体交流の際には、視点を提示して交流をし、より良い文章表現についての理解を確かなものにしたい。

5 指導計画 (全10時間)

単元を貫く問い「身近なテーマをより分かりやすく発信するには、どのような工夫をしたら良いだろう？」

次	時	学 習 活 動	評価規準		
			知・技	思・判・表	態度
1	1・2	<p>どのような環境問題があるか、総合的な学習の時間「考えよう身近な防災」「できることから始めよう」で調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「固有種が教えてくれること」を読み、学習活動の見通しを持つ。 文章の構成を捉えて論の進め方を確認し、内容の全体を捉える。 			○
		<ul style="list-style-type: none"> 文章と資料を結び付けたり、その効果を考えたりして要旨をまとめる。 	○		
2	3	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えなどについて、自分の考えをまとめるとともに資料を使った本を読む。 		○	
	4	<ul style="list-style-type: none"> 統計資料の読み方を理解し、興味を持った資料や文章を読むときに生かす。 	○		
	5	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときのポイントについてWeb会議システムで複業先生（ゲストティーチャー）に話を聞く。 	○		
	6	<p>環境問題のテーマや伝える対象、目的を総合的な学習の時間「考えよう身近な防災」「できることから始めよう」で決める。</p>	○		
	7	<ul style="list-style-type: none"> 決定した環境問題についての統計資料を集める。 			○
	8	<ul style="list-style-type: none"> 書きたい内容について4人1組のグループで構成を考え、役割分担を決め、共有ノートを活用して文章を書く。 		○	
	9(本時)	<ul style="list-style-type: none"> 説得力のある文章にするためにグループでアドバイスを伝え合い、推敲する。 		○	
3	10	<ul style="list-style-type: none"> まとめる。 <p>総合的な学習の時間で発信をする。</p>			○

教師が目指す「深く学んでいる子どもの姿」

【単元】○ 自分が関心を持った環境問題について、より分かりやすく相手に伝えるために、進んで交流し、文章表現を工夫して書こうとする姿。

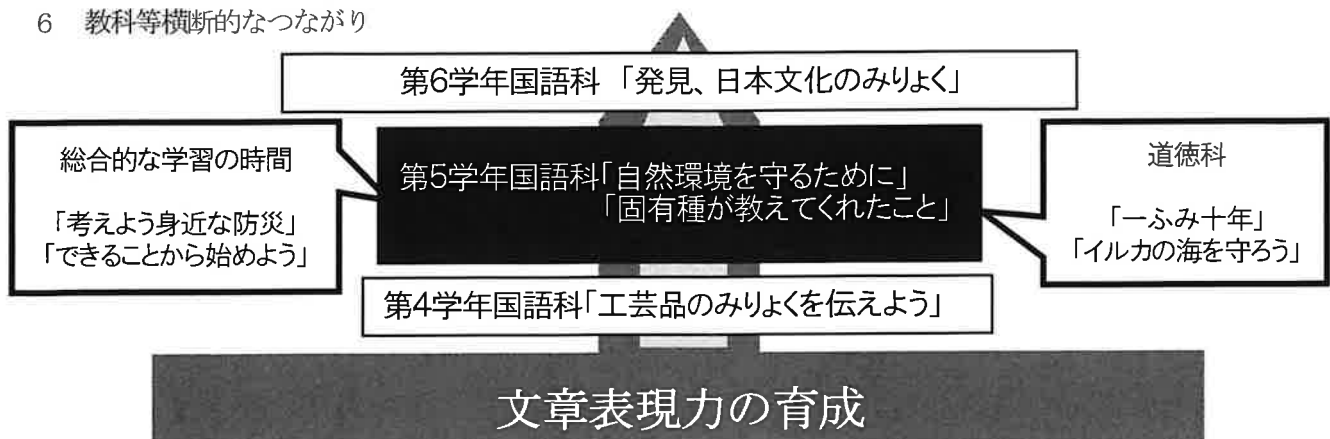
【本時】① 分かりやすく伝えるために、友達のアドバイスを取り入れて文章を直そうとしている。

② 読み手を意識して、分かりやすい文章になるように友達と交流をしている。

③ 既習事項を意識して意見交流をしている。

④ 環境を守るための文章を発信したいという思いを持っている。

6 教科等横断的なつながり



7 本時の指導

目標 交流を通して、より説得力のある文章を書くことができる。			
学 習 活 動	時間	予想される子どもの意識の流れ	指導上の留意点(・) 評価(◎)
1 前時を振り返る。	2	<p>資料を活用して新聞やちらしを書いたよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表、グラフ、写真などの資料があると相手に分かりやすいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 複業先生(ゲストティーチャー)から学んだことを振り返ったり、手本になる資料を確認したりして、分かりやすい文章にしようという気持ちを高める。
2 本時の問いを確認する。	3	<p>新聞やちらしなどをより説得力のあるものにするには、どうしたら良いだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の倉田さんの文章をヒントにする。
3 友達と交流する。	15	<p>友達にたくさん伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章と資料が合っているね。 資料の説明がもう少しあるといいね。 資料の中で注目してほしいところは、具体的に数字で表すといいね。 呼び掛けるような表現を使うといいね。 友達にアドバイスをもらったけど、迷っているから、複業先生に相談しよう。 相手に応じた文章になっているね。 「初め・中・終わり」の文章構成になっているね。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に良い点や改善点などを考え、自分の意見を持って交流に臨む。 紙媒体で交流をする。 交流のポイントを示し、レイアウトだけではなく、様々な視点に目を向けられるようにする。 発信する対象や目的を確認し、伝えたいという思いを高める。
4 全体で交流する。	10	<p>友達からアドバイスをもらったよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数字を入れたよ。 分かりやすい言葉にしたよ。 資料が分かりやすいと言われたよ。 資料の位置を変えたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> アドバイスを共有することで、直接もらっていないことでも自分の文章に生かそうとする意欲を高める。 更に、複業先生から視点を変えたアドバイスをもらう。
5 友達の意見を基に文章を直そう。	10	<p>友達のアドバイスを生かして直してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇〇さんのアドバイスは、自分の文章にも生かせよう。 始めの文章より分かりやすくなったな。 	<p>◎ 友達のアドバイスを取り入れ、さらに説得力のある文章を書くことができたか。</p> <p>【思・判・表】(観察・ICT機器)</p>
6 学習を振り返る。	5	<p>早く完成させたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰に何を伝えたいかをはっきりさせておくことが大事だね。 新聞の書き方が分かったよ。 他学年の人にも見てもらおう。 公民館に置かせてもらって、地域の人に見てもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使って振り返りを行う。地域の方や家族などに発信したいという思いを持てるように次時につなげる。

8 研究の視点

- 複数の教科を関連させた単元を組み、問いを追究していく授業展開は、児童が主体的に活動し、深い学びに向かう上で有効であったか。(L-ア、F-ア)
- 交流のポイントを明確にしたことは、分かりやすい文章を書くための児童の思考の幅を広げ、学びを深める上で有効であったか。(G-ウ、N-エ)

第6学年2組 道徳科学習指導案

指導者 松浦 華絵

1 日 時 令和6年11月7日(木) 第2校時 10:00~10:45

2 単元名(教材名) 「よりよく生きる」(小さな連絡船「ひまわり」 東京書籍)

3 単元デザイン

単 元 目 標

- 学校や社会生活の中で、自分が所属する集団の中での役割を自覚し、主体的に責任を果たすことで、「最後の音楽会」に向けて集団力を高めようとする道徳的心情を養う。

【深い学びのための方策(どんな見方・考え方で学習に取り組ませ深い学びに向かわせるか)】

- 「友達」「家族」「社会とのつながり」など、様々な視点から自分の役割を見詰めていくことで、多面的・多角的なものを見方ができるようにする。
- 問い返しを行うことで自己を見詰め、自分の言葉でしっかりと思いが語れるようにする。
- 主人公の行動の奥底にある心情を想像することで、道徳的価値について深く考えることができるようにする。
- グループで話し合ったり十分な振り返りの時間を設定したりすることで、学んだことを自分事として捉えて自己の学びを実感できるようにする。

【主体的な学びのための工夫】

〈環境づくり〉

- 毎時間の学びが関連していることが分かるよう、教室背面に掲示物を追加していく。
- 児童が選んだ関連図書を学級文庫に置いて読み合うことで、学びへの意欲を高める。

〈授業づくり〉

- 単元全体を通した振り返りシートを用意し、継続した学びが記録できるようにする。
- 単元のゴールである音楽会に向けて、集団の中での役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする意識を高める。

【対話的な学びのための工夫】

- 事前に教材を読み、自分の考えを持った上で授業に臨み、しっかりと思いが伝え合えるよう準備する。
- 様々なグループで毎時間話し合いをすることで、多様な考え方に触れることができるようにする。
- 何について話しているか、明確にして対話ができるようにする。

4 指導観

- 本学級の児童 40 名は、様々な活動に意欲的に取り組み、助け合いながら学校生活を送っている。最高学年として、縦割り清掃班の班長、登校班長、クラブ活動や委員会活動の長など、リーダーとして学校を動かす役割を担っている。誰かに頼られたり、仕事を任されたりすると、気持ち良く返事をしたり、行動しようとしたりすることができる。しかし、一見、主体的に活動しているように見えるが、周囲の状況を考えたり、見通しを持ったりして行動することが難しいため、結果的に時間が掛かってしまったり、自分たちが嫌な思いをしてしまったりして空回りすることも多い。

最高学年として、学校全体のために積極的に働こうとする意欲は持っているが、目の前のことに終始し、集団の一員としての自覚を持って先を見通して行動するまでには至っていないのが現状である。

- 人は社会的な存在であり、家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活を営んでいる。それらにおける集団と個の関係は、集団の中で一人一人が尊重して生かされながら、個々の主体的な参加と協力の下に集団生活が成り立ち、その質的な向上が図られるものでなければならない。そこで、教師や学校で生活する様々な人々との活動を通して、学級や学校全体に目を向けさせ、集団への所属感を高めるとともに、自分がそれらの集団の役に立っているという自己有用感と所属する集団を大切にしようとする愛校心を深められるようにすることが求められる。また、子どもたちが集団生活において果たすべき役割や責任を自覚し、他の人たちと協力し合いながら集団生活の向上を図ることが大切である。

道徳科では、児童が学習に主体的に関わることができるように各教科や行事等と関連させた単元デザインを構成・工夫している。今までに、運動会、修学旅行をゴールに設定した単元を構成し、実践を重ねてきた。3つ目の単元となる今回は、音楽会を単元のゴールと定め、児童と共に教材を選んだ。今回、音楽会に向けた単元を構成するにあたり、「音楽会に向けて、集団力を高めるために必要な心は？」の問いを児童と共に設定した。児童と共に選んだ教材は「友情」「個性の伸長」「誠実」「役割」「努力」など、集団としての力をより高めるのに適したものとなった。

「集団力を高める」という言葉は児童が挙げてきたものである。これは、小学校生活最後の音楽会を成功させるために学級の団結力を更に高めていきたいという児童の思いの表れである。そこで、学級の実態を踏まえ、本単元での学びを通して友達に対する心遣いや学校の内外で自分が果たすべき役割や責任について考えを深め、集団の一員としての自覚を高めていくことでよりよい集団を形成していこうとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

- 本教材は、宮城県の大島と気仙沼港を行き来する連絡船「ひまわり」の船長である菅原進さんの生き方が描かれている。島民の要望に合わせて運航されていた海のタクシー「ひまわり」。東日本大震災の際に、必死になって船を避難させて巨大な津波から守り、島民のライフラインである連絡船の運航をいち早く再開させたという実話である。

本時では、「ひまわり」が島民の生活にとって欠かせない連絡船であったことを押さえた上で、「ひまわり」を運航している菅原さんの行動を通して、使命感や責任感についての理解を深め、責任を果たそうとする心情について考えていく。

授業の中で道徳的価値について考える時間を十分に確保できるよう、家庭学習で、「菅原さんの行動」について考えておく。授業の前半に時系列で菅原さんの行動を押さえていくことで、教材文全体の流れを確認する。そして、菅原さんの行動のどこがすごいのか、考えてきたことを交流する。意見交流をすることで、行動に込められた菅原さんの行動の奥底にまで思いを巡らせ、考えを広げたり深めたりできるようにしたい。そして、菅原さんの思いを基に、役割を果たす上で大切にすべき心情について考えていく。最後に、教材からの学びを自分事として捉え直し、交流によって自己の役割や責任を確認したり再発見したりすることを通して、道徳的心情を高め、日常生活の中での実践意欲と態度の育成につなげたい。

5 指導計画（全5時間）

単元を貫く問い「音楽会に向けて、集団力を高めるために必要な心は？」

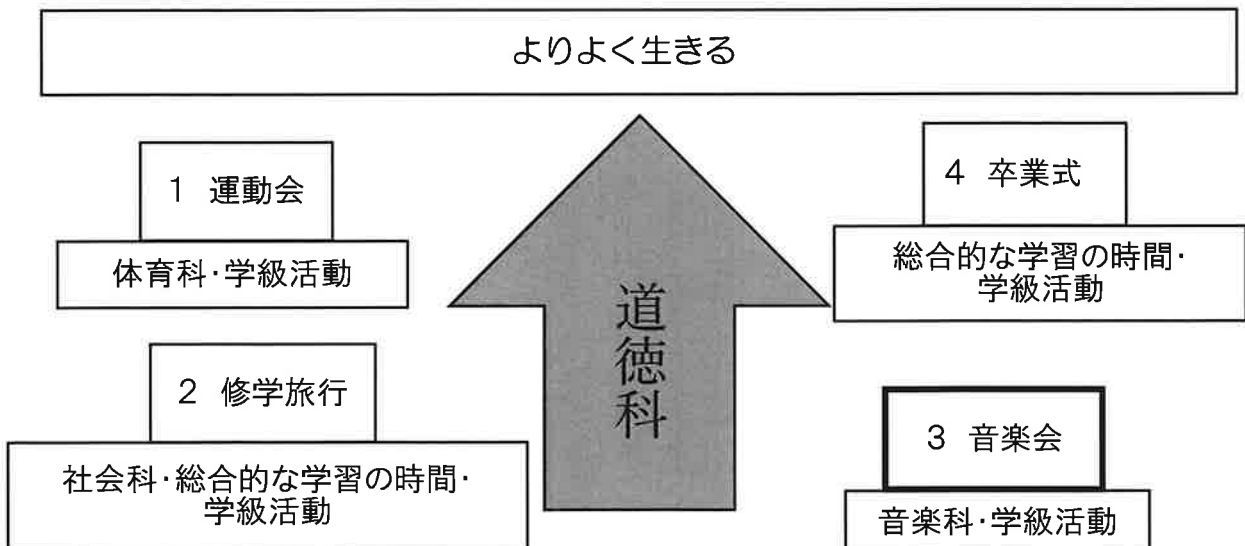
次	時	教材名・主題名	ねらい
1	1	「言葉のおくりもの」 【友情を深める】	性別にこだわらず、互いに信頼し合っ て友情を深め、より良い人間関係を築い ていこうとする態度を育てる。
	2	「雨上がりの日のこと」 【自信を持って自分らしく】	自分の特徴を知り、短所を改め長所を 伸ばそうとする態度を育てる。
	3	「手品師」 【誠実とは】	どのような状況にあっても、常に誠実に 行動し、明るい生活をしようとする心情を 育てる。
	4 本 時	「小さな連絡船『ひまわり』」 【自分の役割】	自分が所属する集団の中での役割を 自覚し、主体的に責任を果たそうとする 心情を育てる。
	5	「心をつなぐ音色—ピアニスト辻井伸行—」 【なりたい自分に】	目標を立て、なりたい自分に向けて、 諦めずに努力しようとする心情を育て る。

教師が目指す「深く学んでいる児童の姿」

【単元】 ○ 友達と交流して意見の比較・検討を行う中で、自分の考えを更に深め、主体的に他者と関わったり集団での責任や役割を果たしたりして、学級集団をより良いものにしていこうとする姿。

- 【本時】
- ① 自己の役割について多角的・多面的に捉えて考えを深め、生活の中で生かそうとする意欲を高めている。
 - ② 友達と協働的に学ぶ中で、様々な視点から自分の考えを述べ合っている。
 - ③ 役割を果たすために大切な心情について理解し、それを基に自己の役割について考えを深めている。
 - ④ 菅原さんの行動について考え、自分の意見を述べている。

6 教科等横断的なつながり



7 本時の指導

内容項目	よりよい学校生活、集団生活の充実（C 主として集団や社会との関わりに関すること）		
主題名	自分の役割		
ねらい	菅原さんの思いを考えることを通して、自分が所属する集団の中での役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする心情を育てる。		
学 習 活 動	時間	予想される子どもの意識の流れ	指導上の留意点(・)評価(◎)
1 課題をつかむ。 ・ 事前に掲示している自分の役割を確認する。	2	自分の役割とは何だろう。 ・ 登校班の班長。 ・ サッカーチームのキャプテン。 ・ 合唱部のパートリーダー。	・ 話しやすい雰囲気を作るため、テンポ良く、自由な発言を促す。
2 教材から考える。 ・ 数直線上に表すことで当時の状況を時系列で確認する。	5	菅原さんはどんなところがすごいのだろうか。 ・ 一人で水門を閉じたところ。 ・ 津波に向かっていったところ。 ・ 気仙沼港に行って島民を運んだところ。 ・ 自分も被災しているのに、島の人のために行動したところ。	・ 家庭学習で考えてきた、児童の意見を把握したものを提示していく。 ・ 多様な意見を聞くことで、当時の状況の厳しさを想像させる。
	15	菅原さんの行動には、どんな思いが込められていたのかな。 ・ 無事に行けるかな。帰れるかな。 ・ 自分にできるかな。 ・ 島民のために役に立ちたい。 ・ 自分にできることは何か。 ・ これまでの恩返しをしたい。	・ 菅原さんの行動の奥底にある思いに触れさせる。 ・ 意見を交流することで、考えを広げたり深めたりできるようにする。
3 本時のまとめをする。	15	自分の役割を果たすために大切な心って何だろう？ ・ 相手を思いやる心 ・ 責任を果たそうとする心 ・ やり遂げようとする強い心	◎ 集団での役割について、自分事として考え、これからは生かそうとしている。 〈ノート、発表〉
4 学習を振り返る。	8	最高学年として、学校・学級の一員として、自分にできることは何だろう？ ・ 下学年のお手本となる自分になりたい。 ・ 周囲のことを考えられる自分になりたい。 ・ 音楽会練習で責任を持って自分のパートを務めたい。 ・ 相手を尊重する心を大切にしていきたい。	・ 自分事として考えることができるよう学習活動1を振り返る。 ・ 今日の学習を通して考えたことを記録する。

8 研究の視点

- ・ 学校行事を核として単元を構成し、同じ問いについて継続して考えていくことは、児童が自己を見詰め直し、思考を深めていくのに有効であったか。 (L-ア)
- ・ グループや全体的話し合いを深めていく中での教師のファシリテートは適切であったか。 (H-イ、I-エ)

1 日時 令和6年11月7日(木) 2校時 10:00~10:45

2 単元名 ぽかぽかタイム~なかよくなるう~

3 単元デザイン

単元目標	
○ 活動の目的が分かり、プレゼントを作ることができる。	【知識及び技能】
○ 自分を支えている人がいることに気づき、相手のことを知り、感謝の気持ちを伝える方法を考えることができる。	【思考力、判断力、表現力等】
○ 人と関わりながら、活動に進んで取り組むことができる。	【学びに向かう力、人間性等】
評価規準	
【知識・技能】	
○ 活動の目的が分かり、プレゼントを作っている。	
【思考、判断、表現】	
○ 自分を支えている人がいることに気づき、相手のことを知り、感謝の気持ちを伝える方法を考えようとしている。	
【主体的に学習に取り組む態度】	
○ 人と関わりながら、活動に進んで取り組んでいる。	

【深い学びのための方策（どんな見方・考え方で学習に取り組ませ、深い学びに向かわせるか）】

- 実際の生活場面に即した課題とすることで、自分なりに考えて作業したり、より良い方法を見付けたりすることができるようにする。
- 人との関わりが持てる学習内容にすることで、共に活動することの喜びを感じられるようにする。
- 他教科、学校行事等と関連を考えながら学習を進めることで、これまでに学んだことを本単元の学習に生かしたり、本単元で学んだことを今後の学習や生活に生かしたりすることができるようにする。

【主体的な学びのための工夫】

〈環境づくり〉

- 活動に興味を持てるように、活動に関わりのある視覚的な掲示物や適切な用具を用意する。
- 児童の動きを考えて、活動しやすい場を作る。

〈授業づくり〉

- 児童の実態に合った目当てを、児童が教師と共に決めることで、活動への意欲を持たせる。

【対話的な学びのための工夫】

- 教師と児童、支援員と児童、児童同士等、共に活動する場を設定し、互いに聞き合ったり話し合ったりする機会を増やす。
- 児童自身に共通の目的意識を持たせることで、「どうすればよいか」「どれを選べばよいか」などと、共に考えられるようにする。

4 指導観

- 本学級は、全4名（1年生1名、3年生1名、6年生2名）で構成されている。児童は学習に一生懸命取り組むことができる。互いの学ぶ様子を見ることが励みとなり、自分も頑張ろうとする姿が見られる。児童同士で関わることはやや苦手ではあるが、学習活動や休み時間の遊び等を通して、関わり方を学んでいる。友達の良い言動に気付いて、素直に褒めたりまねしたりしようとする姿が少しずつ見られるようになるなど、学級のまとまりを感じられるようになってきた。しかし、児童は、興味のあることとないことが比較的是っきりしている。また、3学年にわたって構成されているため、全員がそろって学習する機会は少なく、個別に行うことが多い。共に活動する際には、自分の思いを一方的に伝えようとする言動が見られ、そのときの状況によっては一緒に活動することが難しい場合もある。それぞれが特性を持ちながら、共に学び、互いの良さに気付き、一緒に活動する楽しさを味わわせることが現在の課題の一つである。

児童は、4月から、生活単元学習「やさいをそだてよう」で夏野菜の栽培に挑戦し、毎日世話をしてきた。定期的に行う「たんじょうかいをしよう」では、役割分担をして、誕生者に喜んでもらえるような内容を企画し、行っている。それぞれの良さが発揮できるような役割や内容を設定し、児童が互いの良さに気付き、認め合えるような活動となるように意識している。それらの活動の中で、児童から、「野菜ができたなら、誰にあげよう。」「〇〇くんの好きなものは～だから、～にしよう。」などと、相手のことを想像した言動が見られるようになってきた。

- 本単元「ぼかぼかタイム」は、活動の中で、誰かに喜んでもらいたいと思った児童の言動から生まれた単元である。自分のことだけではなく、身近な人に目を向けて知ろうとすること、そして、自分の周りには支えてくれている人がいることに気付き、感謝の気持ちを持つことは、児童が将来、自分の周りの人とより良い関係を築き、日々を前向きに生活していくために必要であると考え。本単元では、より良い関係を築くということを児童の発言から「なかよくしよう」と表現し、これを共通の目的として活動を進めていく。共に活動することで、児童同士の関わりが増え、主体的に活動し、最後まで頑張ろうとする態度を育てることができると考える。さらに、互いの良さに気付いたり、自分が誰かのために行動することの喜びを感じたりすることができ、集団の一員としての貢献を実感する学びになると考える。

また、本単元は、学期ごとに活動を計画している。1年間の中で児童は、学習活動や生活において、他の児童や教師と、家族、地域の人々と関わりながら、互いの関係を築いたり、集団への所属感を高めたりすることが予想される。段階的に活動を計画することは、児童がより主体的に活動することや自己有用感を持つことにつながると考える。

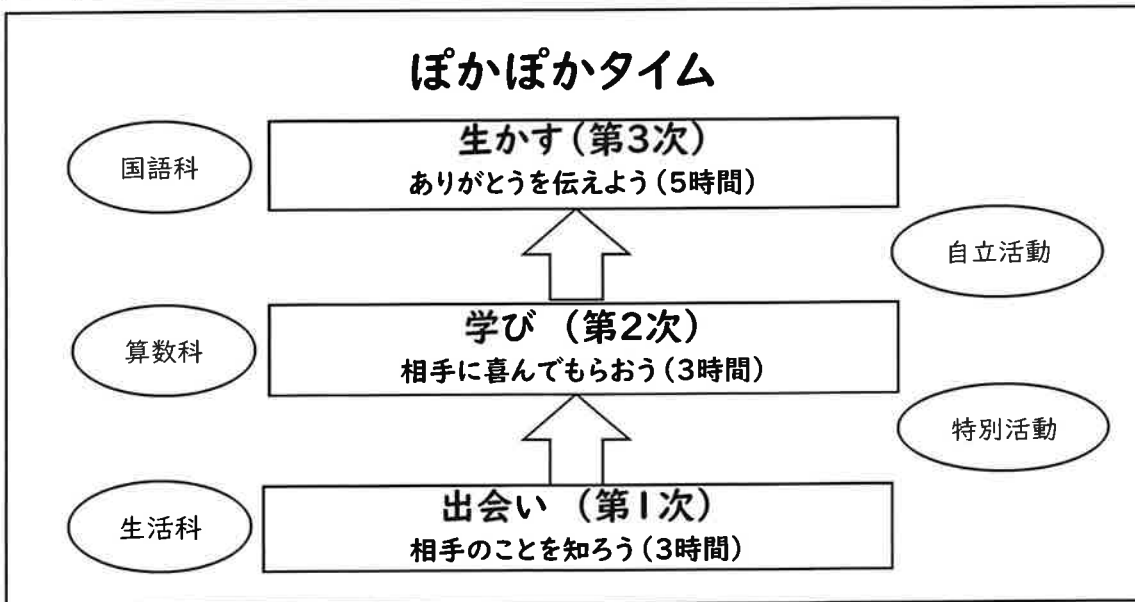
- 本単元は「出会い（相手のことを知ろう）」「学び（相手に喜んでもらおう）」「生かす（ありがとうを伝えよう）」の3段階で構成する。「出会い（相手のことを知ろう）」では、相手に喜んでもらうためには、相手の好みを知ることが大切であることを学習した。自分の好きなものではなく相手の好みを考えて、品物を選んだりラッピングしたりした。相手にプレゼントを渡す場を設定することで、児童は、相手に喜んでもらったことのうれしさを感じることができた。「学び（相手に喜んでもらおう）」では、前回学んだことを生かして、児童自らが相手を設定し、その人に喜んでもらうにはどうすればよいかを考えることができるようにする。相手のことを知りたい、相手に喜んでもらいたいという気持ちを高められるように、自分たちの作ったものの中からプレゼントするものを選ぶ。「生かす（ありがとうを伝えよう）」では、これまでに学んできたことを基に、各学年の締めくくりの時期でもあることと結び付けながら感謝の気持ちを伝えることができるようにする。児童が計画し、実践し、実際の生活の中でも活用できるようにしたいと考える。

本時では、喜んでもらいたい相手の好みを考えて、自分たちでプレゼントするものを選ぶことができるようにする。活動の中では、誰かと一緒に活動する場面を作り、必要なやり取りをしながら作業する。児童にとっては、一人で作業するよりも困難な場面もあると想定するが、その場面で、どのように関わればよいかや、互いの考えの食い違いにどう折り合いを付けたり、声を掛けたりすればよいか等を、支援者の力を借りながら考え、最後まで一緒に活動できるようにしたい。後半は、プレゼントするものを見せながら、そこに込めた思いを伝える場を設定する。思いを伝え合い受け止めることで、相手に喜んでもらうために活動することの喜びや、人と関わりながら活動することの楽しさを感じられるようにしたいと考える。

5 指導計画 (全 11 時間)

単元を貫く問い「あいてによるこんでもらうには？」

次	時	学 習 活 動	○指導の手立て	◎評価
学 び	1	<ul style="list-style-type: none"> 喜んでもらいたい相手を決めて、方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真等を活用して実際の生活を想起させることで、児童の周りには支えている人がいることに気付くことができるようにする。 ○ 1学期の活動を思い出させて、相手に喜んでもらうためにはどうすればよいかを考えることができるようにする。 ◎ 自分を支えている人がいることに気づき、感謝の気持ちを伝える方法を考えることができる。(観察) 	
	2 本時 2/2	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼントするものを選び、ラッピングする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人が最後まで活動できるように、個々に合った目当てを設定し、確認する。 ○ 事前に相手の好みを聞くことで、活動への意欲を高める。 ○ 一人一人が目当てに向けて取り組んでいることを実感できるように、活動場면을写真で振り返るようにする。 ◎ 相手のことを考えながら、丁寧に作業しようとしていたか。(観察) ◎ 友達や支援者と関わりながら活動し、最後まで活動しようとしていたか。(観察) 	



教師が目指す「深く学んでいる子どもの姿」

【単元】○ 自分の思いだけでなく、相手に喜んでもらうために、相手のことを考えて、丁寧に作業する姿。

- 【本時】**
- ① 自分なりの方法で、人と関わったり、考えを伝えようとしていたりしている。
 - ② 関連する教科等で学んだことを生かそうとしている。
 - ③ 自分の好きなものではなく、相手の好みを考えてプレゼントを選んだり作ったりしている。
 - ④ 友達と一緒に、最後まで活動している。

6 単元に関する個別の実態

7 本時の学習

(1) 本時の目標

○ 相手のことを考えて、友達と関わりながら丁寧に作業することができる。

(2) 個別の目標

【当日別紙配付】

※授業後回収します。

(3) 展開

○指導の手立て (支援方法) ◎評価

	時間	A	B	C	D
つかむ	10	学習活動	○ 写真等を提示しながら、本時の目当てをつかめるようにする。 ○ 一人一人が最後まで活動できるように、それぞれの目当てを確認する。 ○ 誰と活動するかを確認し、意識できるようにする。 ○ プレゼントを渡す相手を確認し、活動への意欲を図るようにする。 ○ 活動の流れが分かるように、視覚的に確認できるものを用意する。 ◎ 目当てを知り、活動の見通しを持つとうとしていたか。(観察)		
知る・考える	25	2 プレゼントを作る。 (1) 相手の好みを確認する。 (2) 選んでラッピングする。 (3) でき上がったものを紹介する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友達と一緒に、最後までプレゼントを作ることができる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">相手のことを考えて、友達と話しながらプレゼントを作ることができる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">相手が喜ぶプレゼントを作ろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">相手のことを考えて、友達と最後まで一緒にプレゼントを作ることができる。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">相手のことを考えて、友達の見聞きながら一緒にプレゼントを作ることができる。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">相手のことを考えて、友達の見聞きながら一緒にプレゼントを作ることができる。</div>
振り返る	10		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ 作業する場所を明確にし、友達と一緒に活動できるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ 相手の意図を持てるように、写真をそばに置く。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ 友達と話しながら作業できるように声掛けをする。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ 相手の好みを知るためのメモを手元に置き、確かめられるようにする。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ メモを手元に置き、相手の好みを忘れたときに確認できるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ 友達のことを考えた言葉を称賛し、自信が持てるようにする。</div>
			◎ それぞれの目当てに即した評価を行う。(観察)		
			○ プレゼントに込めた思いを伝えることで、互いを認め合い、より達成感や満足感を味わえるようにする。		
			○ 本時の目当てに沿って、自分や友達の良かったところや頑張ったところに気付くことができるように、場面を思い出させながら振り返るようにする。		
			◎ 学習を通して気付いたことを話したり、友達の感想を聞いたりしようとしていたか。(観察)		

8 研究の視点

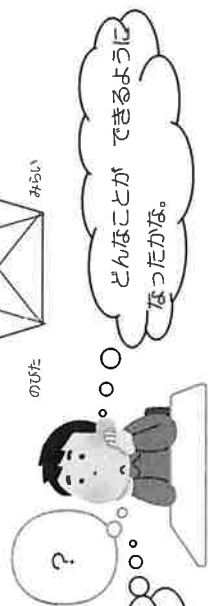
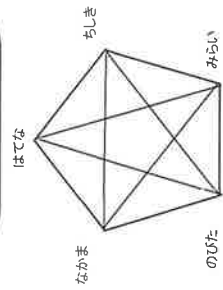
- ・ 児童の実態を考えた単元を構成し授業を展開することは、児童が主体的に活動するために有効であったか。(Bーイ、Lーア)
- ・ 人と関わりながら活動する場面を設定したことは、児童の学びを深めるために有効であったか。(Gーウ)

おそひのてしり ちかひのてしり ちかひのてしり ちかひのてしり ちかひのてしり ちかひのてしり

ここに しやしんを はる。

「おそひ」を削り ちかひのてしり ちかひのてしり ちかひのてしり ちかひのてしり

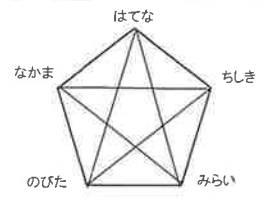
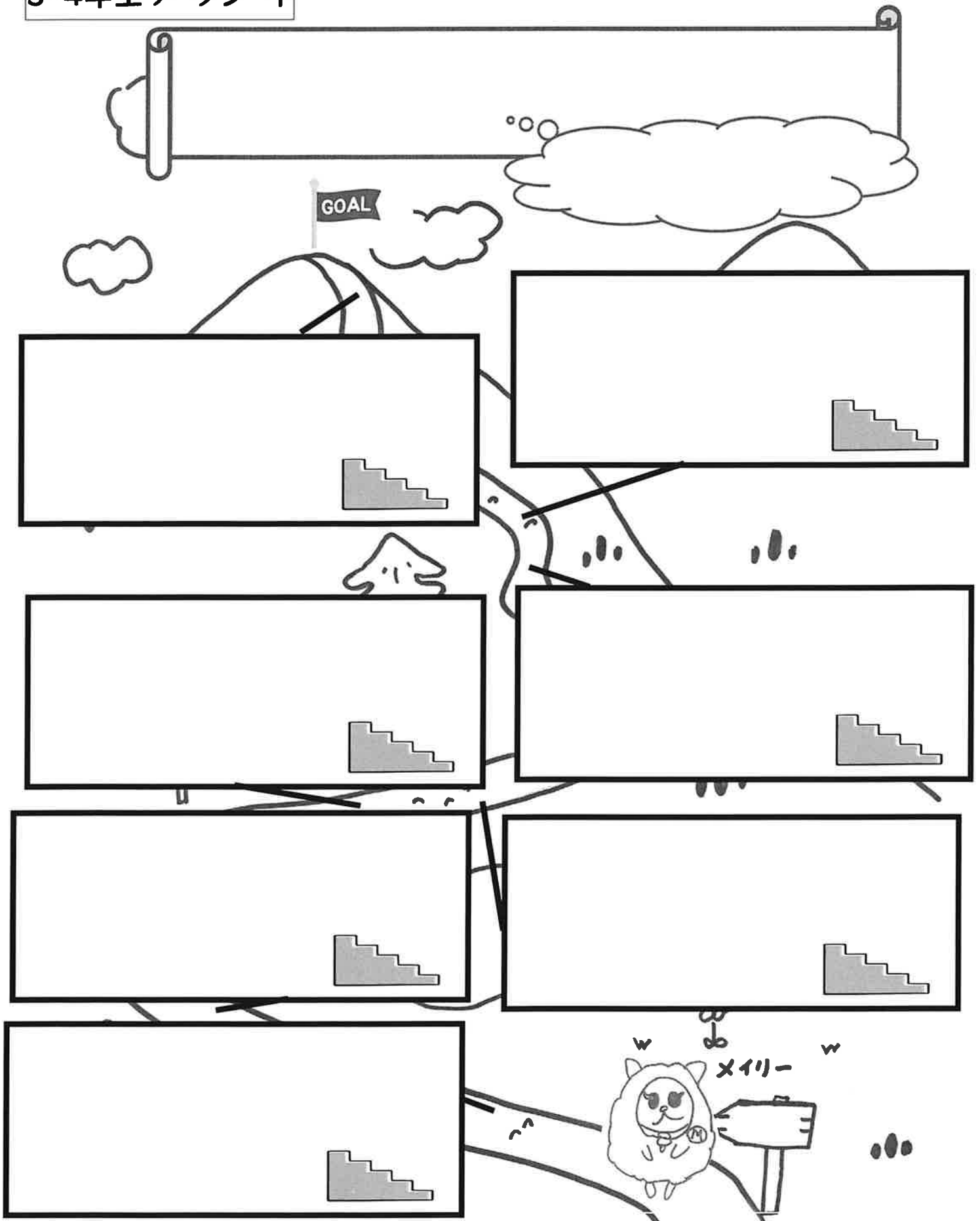
「おそひ」を削り ちかひのてしり ちかひのてしり ちかひのてしり ちかひのてしり



どんなことが できるよな になったかな。

これから、生かせそうな ことは何だろう。

3・4年生ワークシート

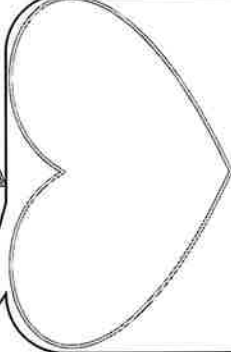
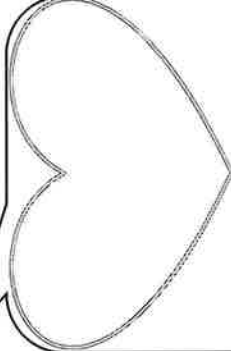
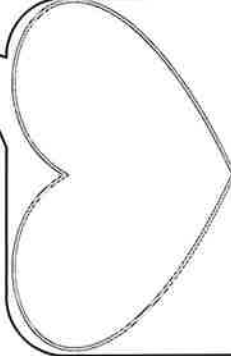
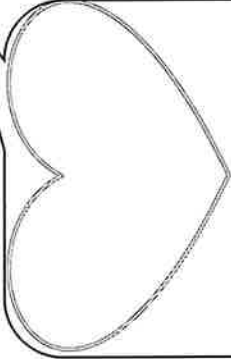


名前 ()

音楽会

音楽会に向けて、集団力を高めるために必要な心は？

クラス



1.言葉のおくりもの



2.雨上がりの日のこと



3.手品師



4.小さな連絡船「ひまわり」



5.「心をつなぐ音色」

自分

~メモ~

